

豊岡市地域コミュニティビジョン策定検討委員会

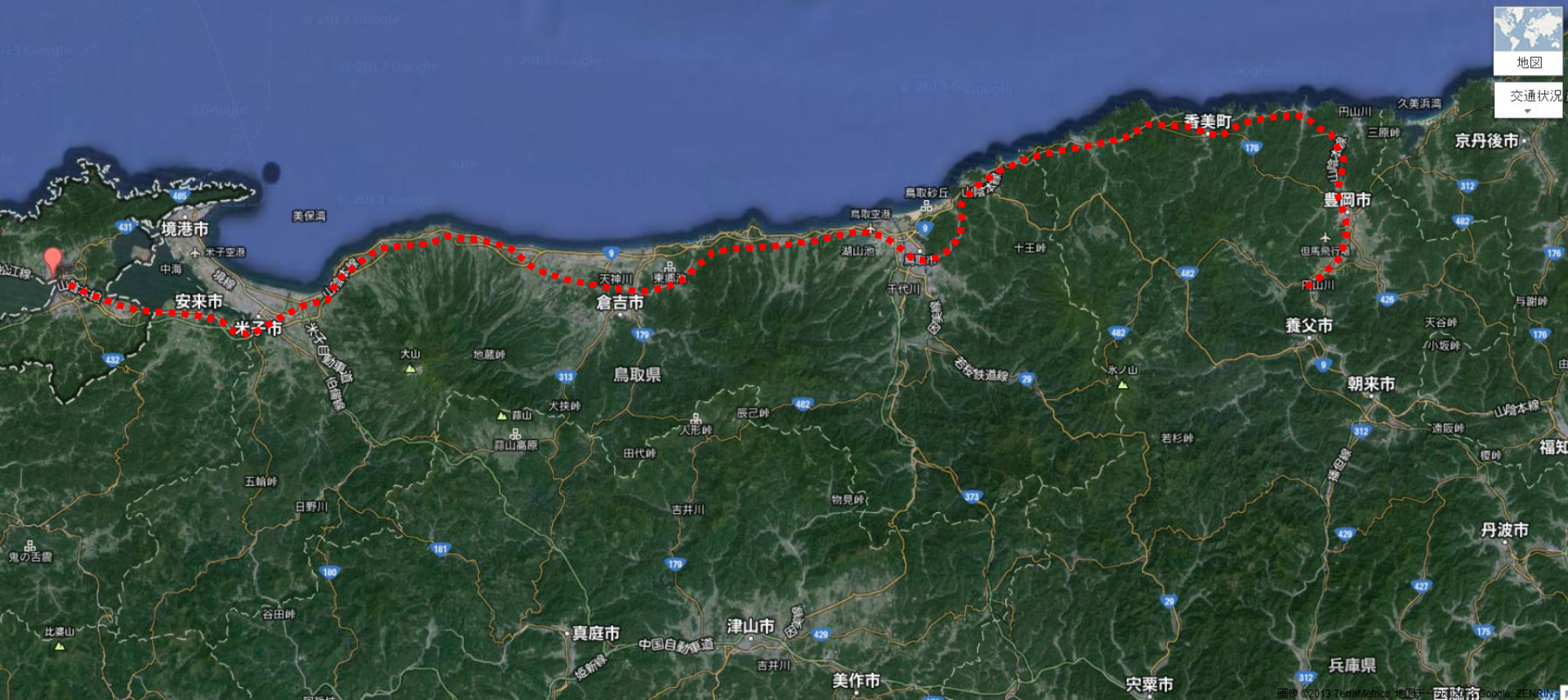
新しい地域コミュニティの必要性

～豊岡市の輝かしい未来を創るために～

作 野 広 和
(島根大学教育学部)

I はじめに

島根県松江市から通って8年目（2011年～）



片道4時間30分の列車の旅

豊岡市の皆様とのご縁を頂き 心より感謝申し上げます

■2011（平成23）年度

- ・ 兵庫県のご紹介により但東地域全体の集落対策事業に関わる

■2012（平成24）年度

- ・ 但東過疎地域戦略プロジェクトとして再スタート
- ・ 豊岡市但東過疎対策アドバイザーに就任
- ・ 但東地域の資母地区、高橋地区、合橋地区の地域づくりに関わる

■2013（平成25）年度

- ・ 豊岡市における新しい地域コミュニティのあり方検討委員会に関わる
- ・ 豊岡市地域コミュニティアドバイザーに就任

■2014（平成26）年度

- ・ 豊岡市における新しい地域コミュニティのあり方に関する答申

■2015（平成27）年度

- ・ 豊岡市地域コミュニティ政策推進会議会長に就任

■2016（平成28）年度

- ・ 豊岡市地域コミュニティ政策推進会議解散

豊岡市の皆様とのご縁を頂き 心より感謝申し上げます

■2017（平成29）年度

- ・ 豊岡市において29の地域コミュニティ組織が立ち上がる
- ・ 豊岡市との共同研究（1年目）

■2018（平成30）年度

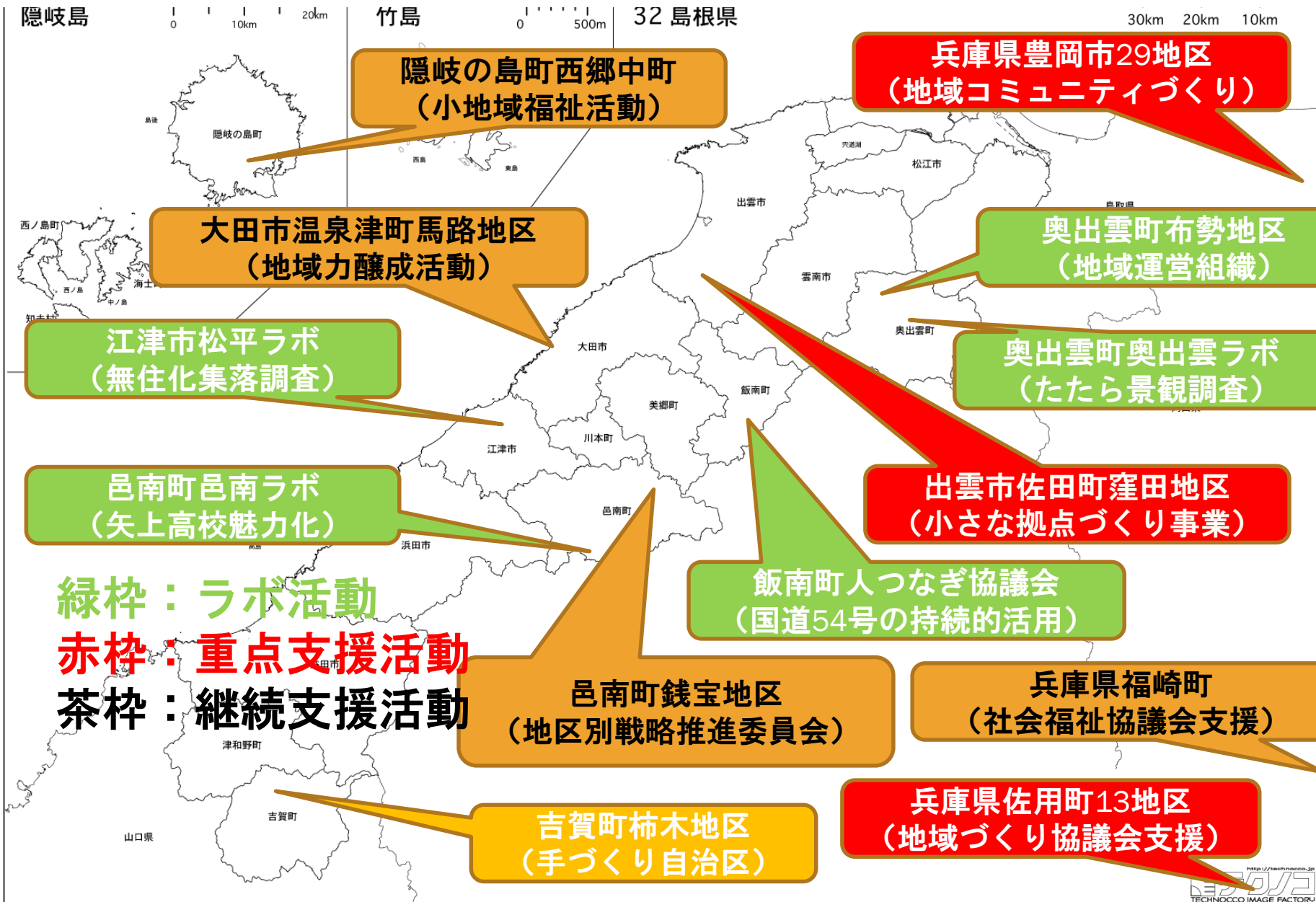
- ・ 豊岡市地域コミュニティビジョン策定委員会設立
- ・ 豊岡市との共同研究（2年目）

■2019（平成31）年度

- ・ 豊岡市地域コミュニティビジョン策定予定
- ・ 豊岡市との共同研究（3年目・予定）



2018年度 地域づくり支援活動地区



2018年度～ 飯南ラボ（飯南町）



高校魅力化：矢上高校・飯南高校 米子西高校・目野高校



本日の構成

I はじめに

II 人口減少社会の未来像

III 市民協働で創るまちづくり

IV 新しい地域コミュニティの具体像

V 豊岡市の地域コミュニティ構築に参考となる事例

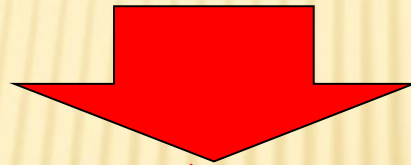
VI おわりに

Ⅱ 人口減少社会の未来像

豊岡で耳にした衝撃の言葉

「自分たちは何も困っていない」

（なぜ地域コミュニティを構築する必要があるのか？）



すばらしい**まちづくり**の成果か？

（自分だけは？ 今までは？・・・）

実は豊岡だけではない・・・

出雲市佐田町
西山中振興協議会
大山集落（会長談）

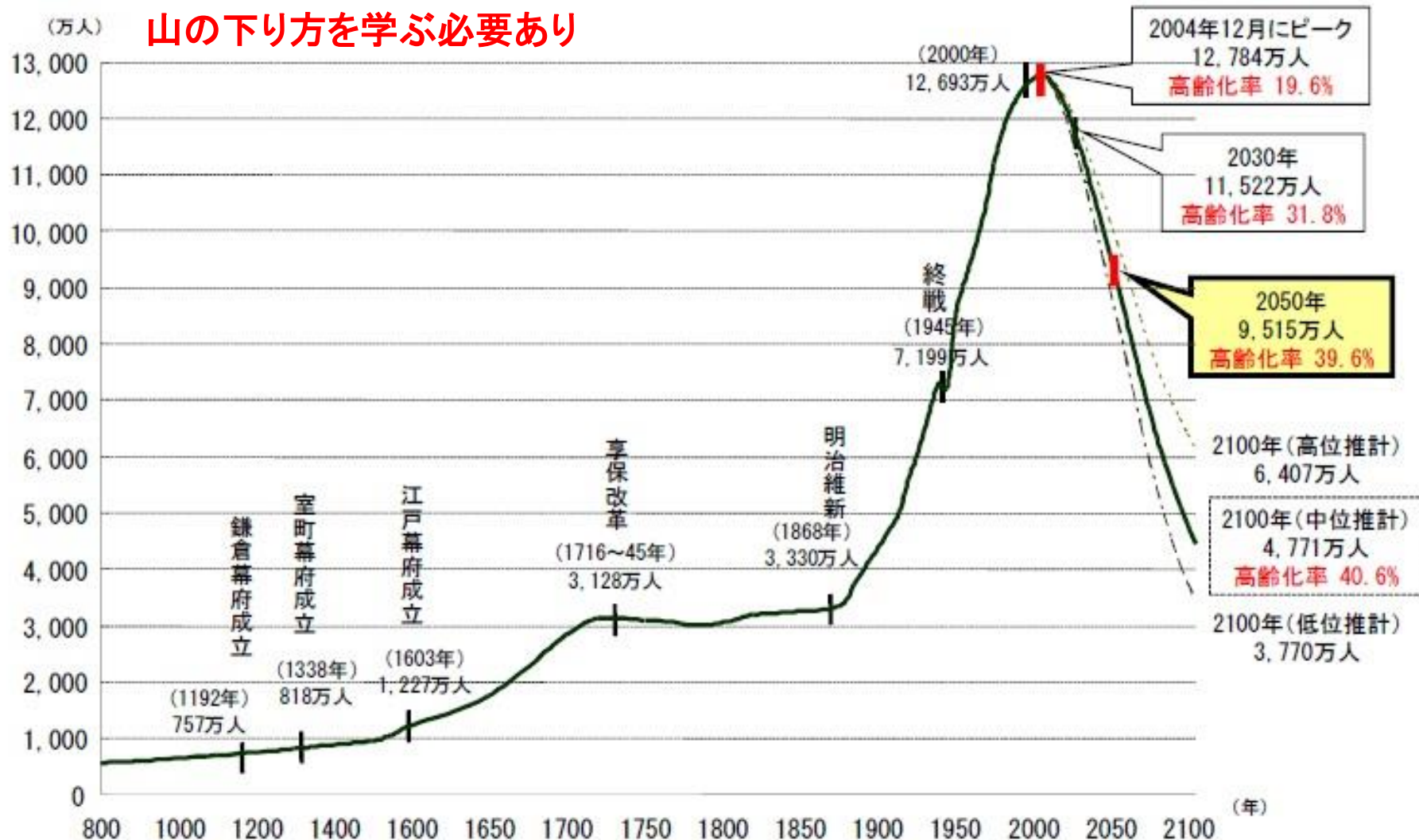
世帯数：10

高齢化率：約65%



山を下りははじめた日本・先進諸国

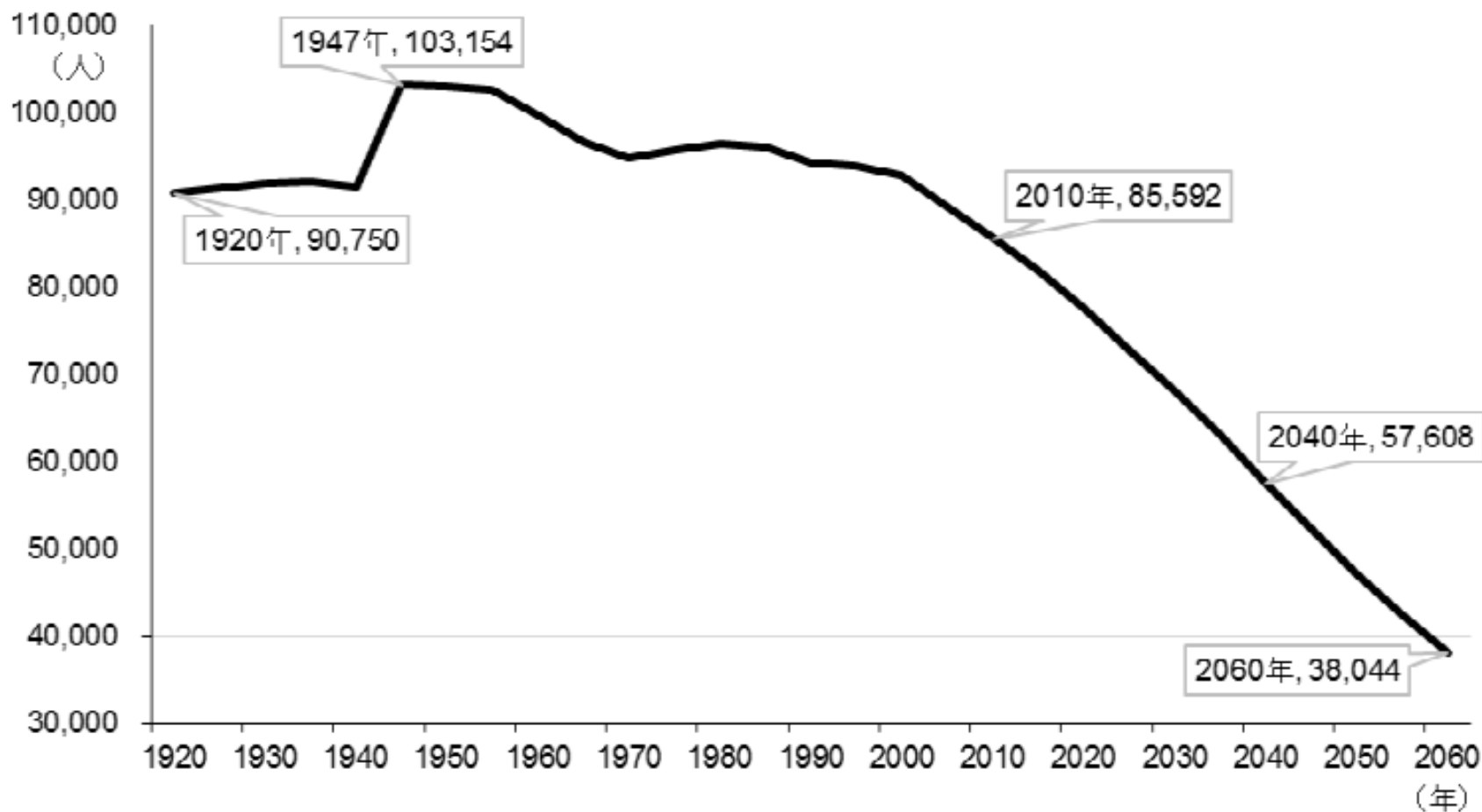
山の下り方を学ぶ必要あり



(出典)総務省「国勢調査報告」、同「人口推計年報」、同「平成12年及び17年国勢調査結果による補間推計人口」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成18年12月推計)」、国土庁「日本列島における人口分布の長期時系列分析」(1974年)をもとに、国土交通省国土計画局作成

豊岡市の人口も半減する予定

【図1】 総人口の推移と将来推計（1920～2060年）



(出典) 1920～2010年は総務省統計局「国勢調査」、2015年以降は内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局提供人口推計ワークシート（CD-ROM）により作成した本市基準推計

参考になった発言

兵庫県佐用町地域づくり協議会

いき詰まった協議会組織の再生事業

2018（平成30）年度より～（4年程度）

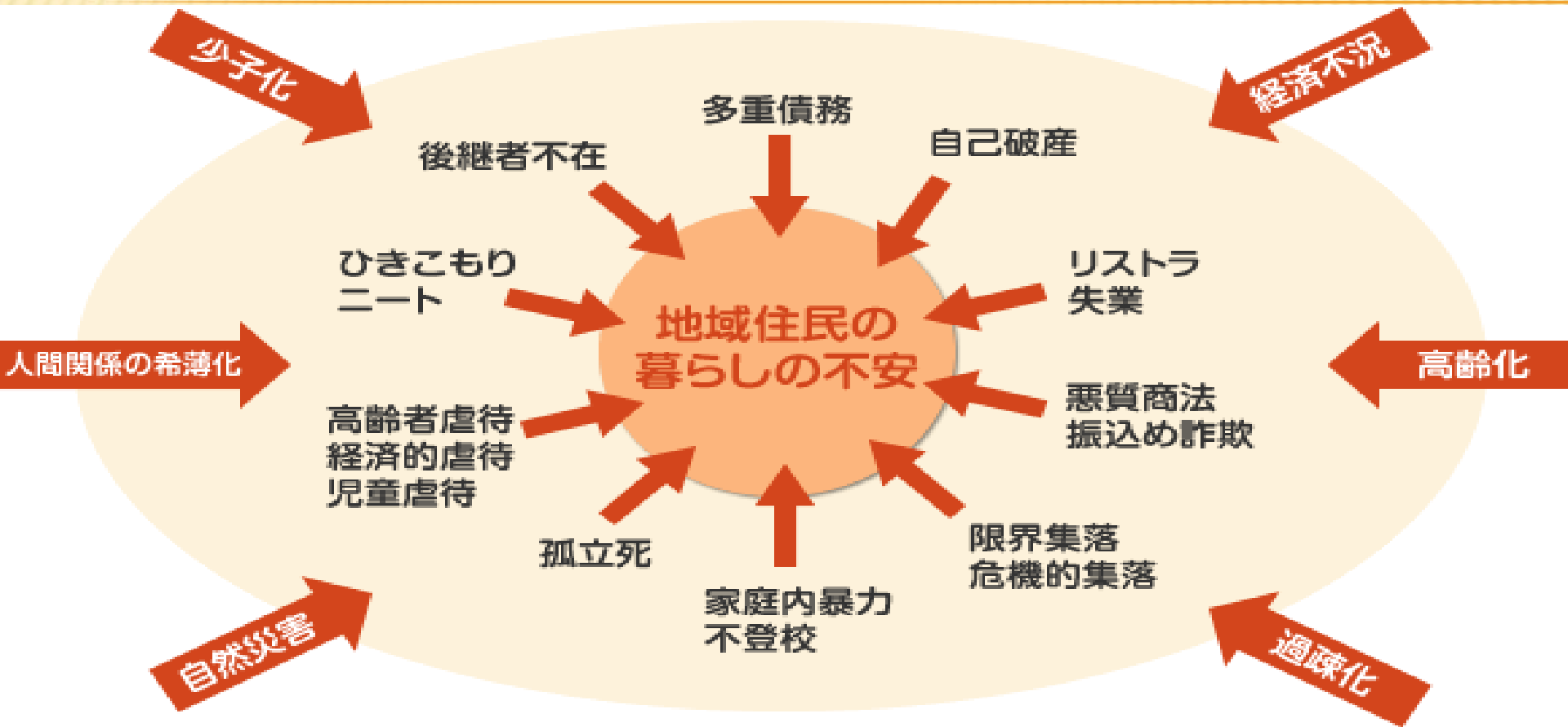
<最も「動きが鈍い」と言われる地区での発言>

「世帯や自治会（行政区）は、自分たちの生活が中心。目先の1年先，2年先程度のことしか考えていない。」

「だからこそ，地域づくり協議会が必要なんだ」

（佐用では1，2を争うクレーマーによる発言）

しかし！ 地域の問題は山積み



都会も田舎も同様な問題が生じている

最も怖いことは「心の過疎」

「あきらめ」→「誇りの醸成」



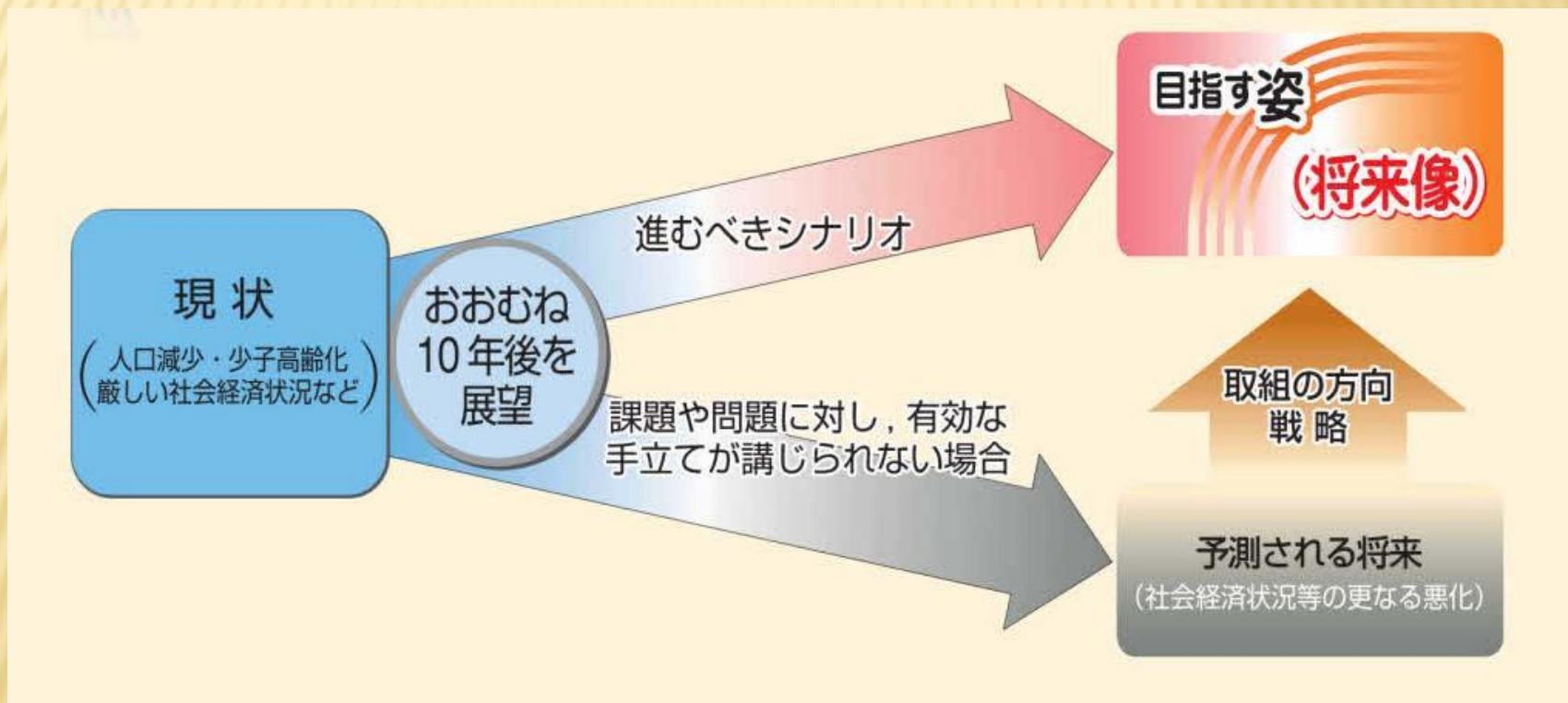
児童・生徒数が一定数いるのに、
学校統廃合の話が出て、
「反対運動」すらおこらない地域
(島根県江津市)



地域づくりを行わなかった結果、
外部と対話ができなくなった地域
(新潟県中越地方)

私たちの暮らしをよりよくすること それが「地域づくり」

何もしないのと、何かをするのとでは大きく異なる



「まずは第一歩」を踏み出すことで地域は変わる

Ⅲ 市民協働で創るまちづくり

究極の目的は「住民自治」



フォーマル＝失敗が許されない
ボンディング型ソーシャルキャピタル

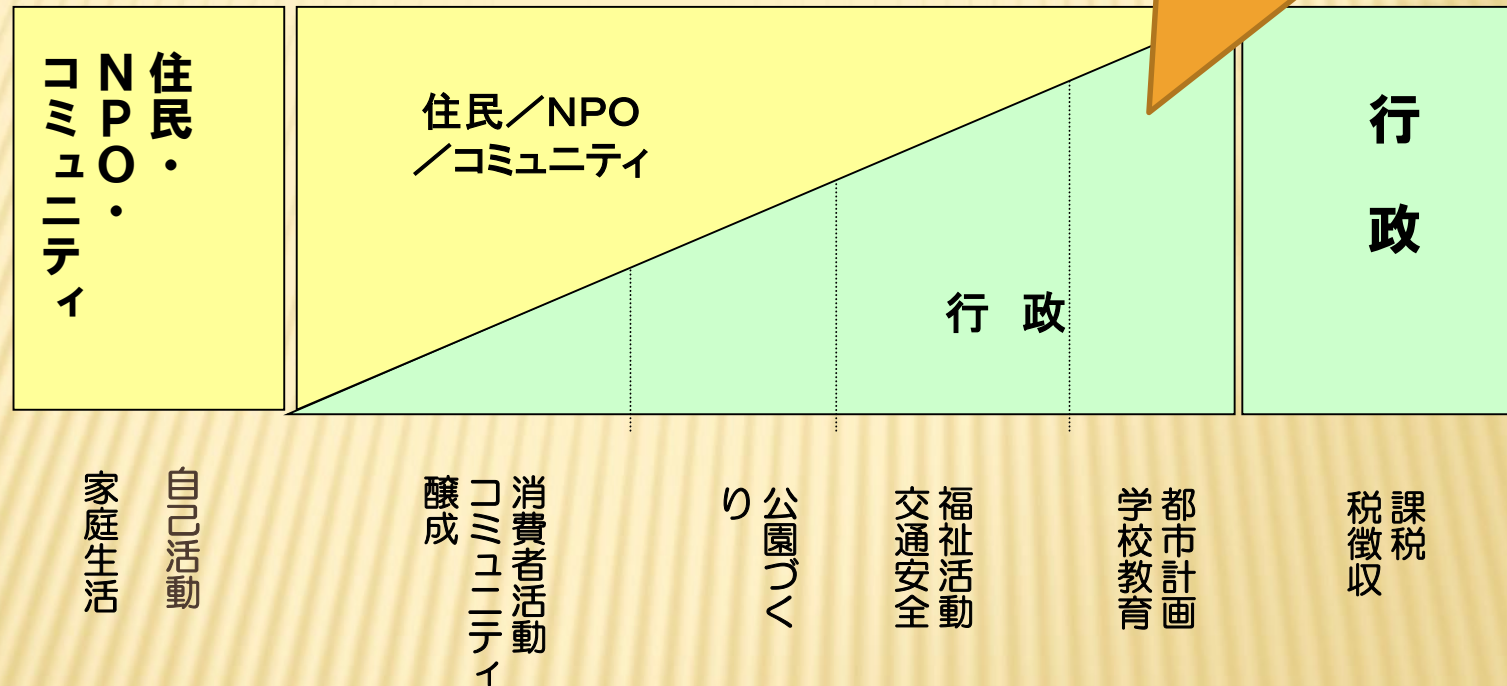
行政区と従来の公民館機能

インフォーマル＝試行錯誤が可能
ブリッジング型ソーシャルキャピタル

自分たちの地域は自分たちで作る
新しい地域づくり組織

多様な「協働」のあり方

行政もしっかりと汗を流している姿を見せる必要がある

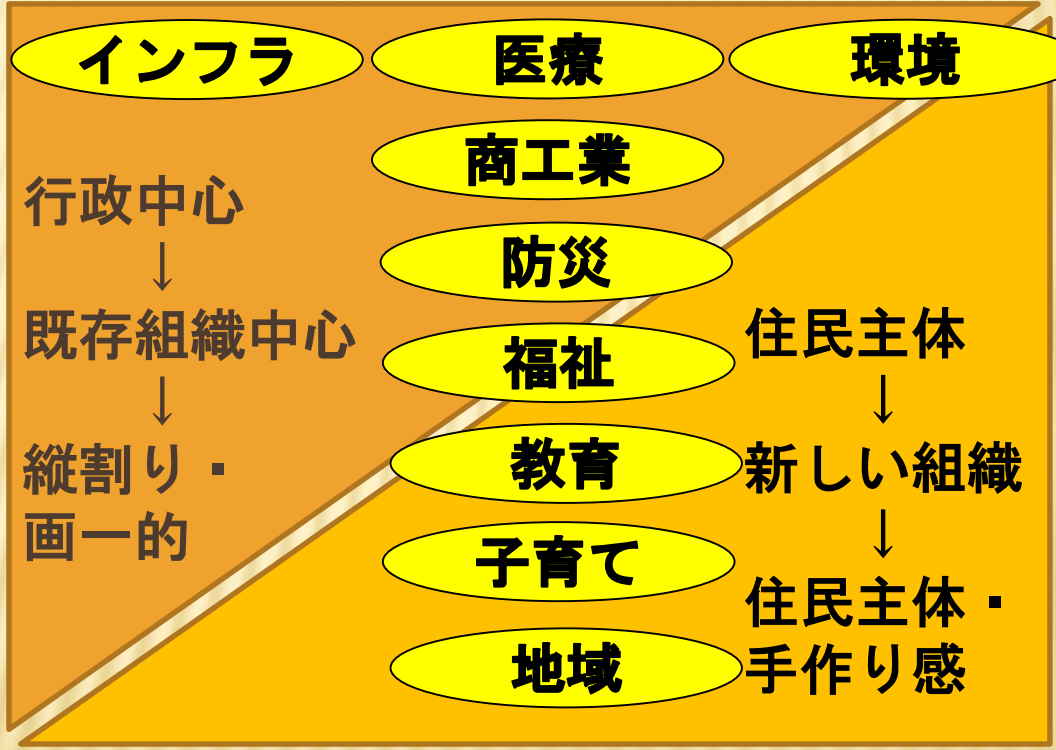


《委託・共催・補助・後援・・・》《情報収集・政策形成・実践・評価》

「協働」というからには住民に押しつけない

住民自治を確立するためには ボトムアップ型の地域づくり組織が必要

トップダウンの地域づくり



ボトムアップの地域づくり

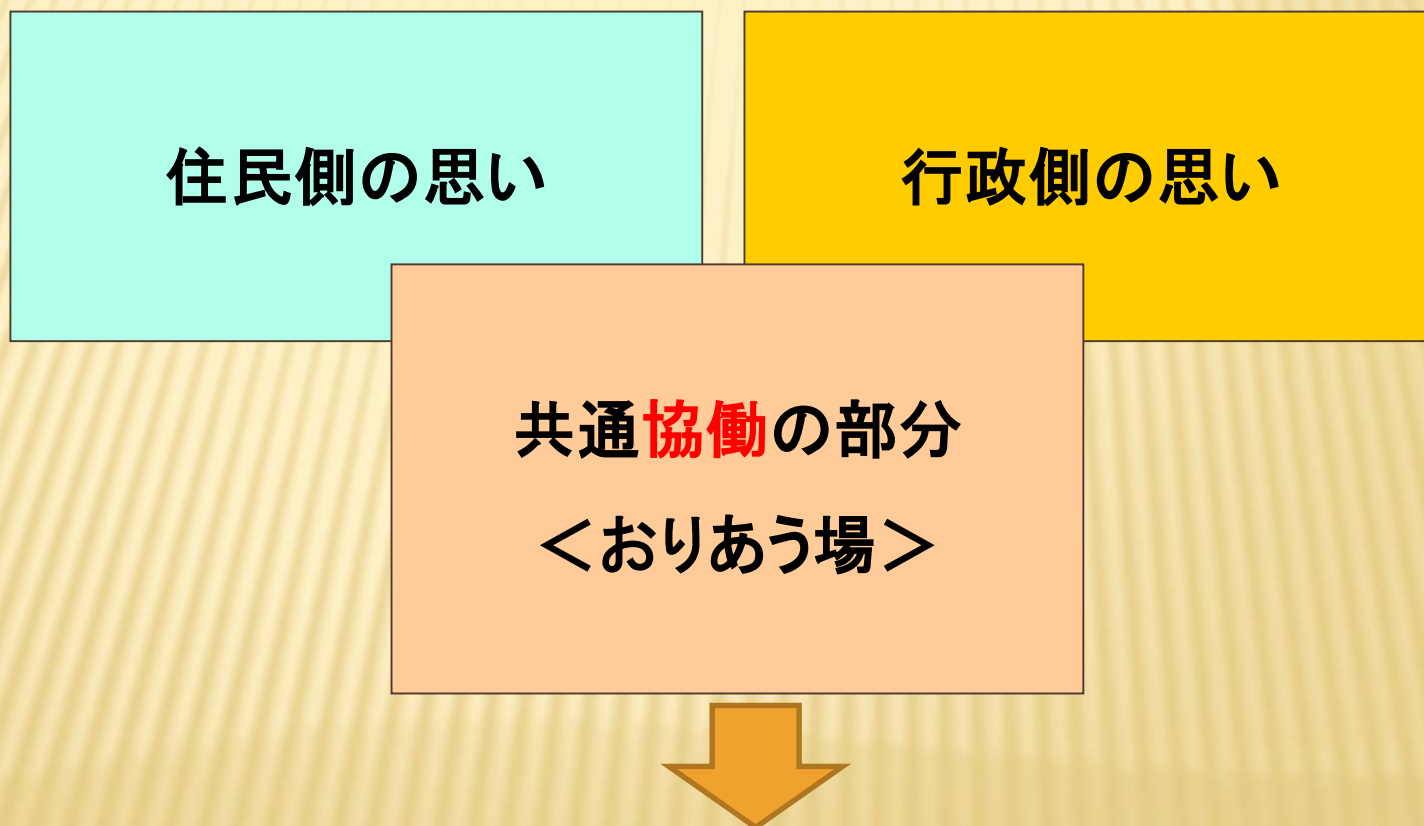
公民館・行政区による地域づくり

新しい地域コミュニティによる地域づくり

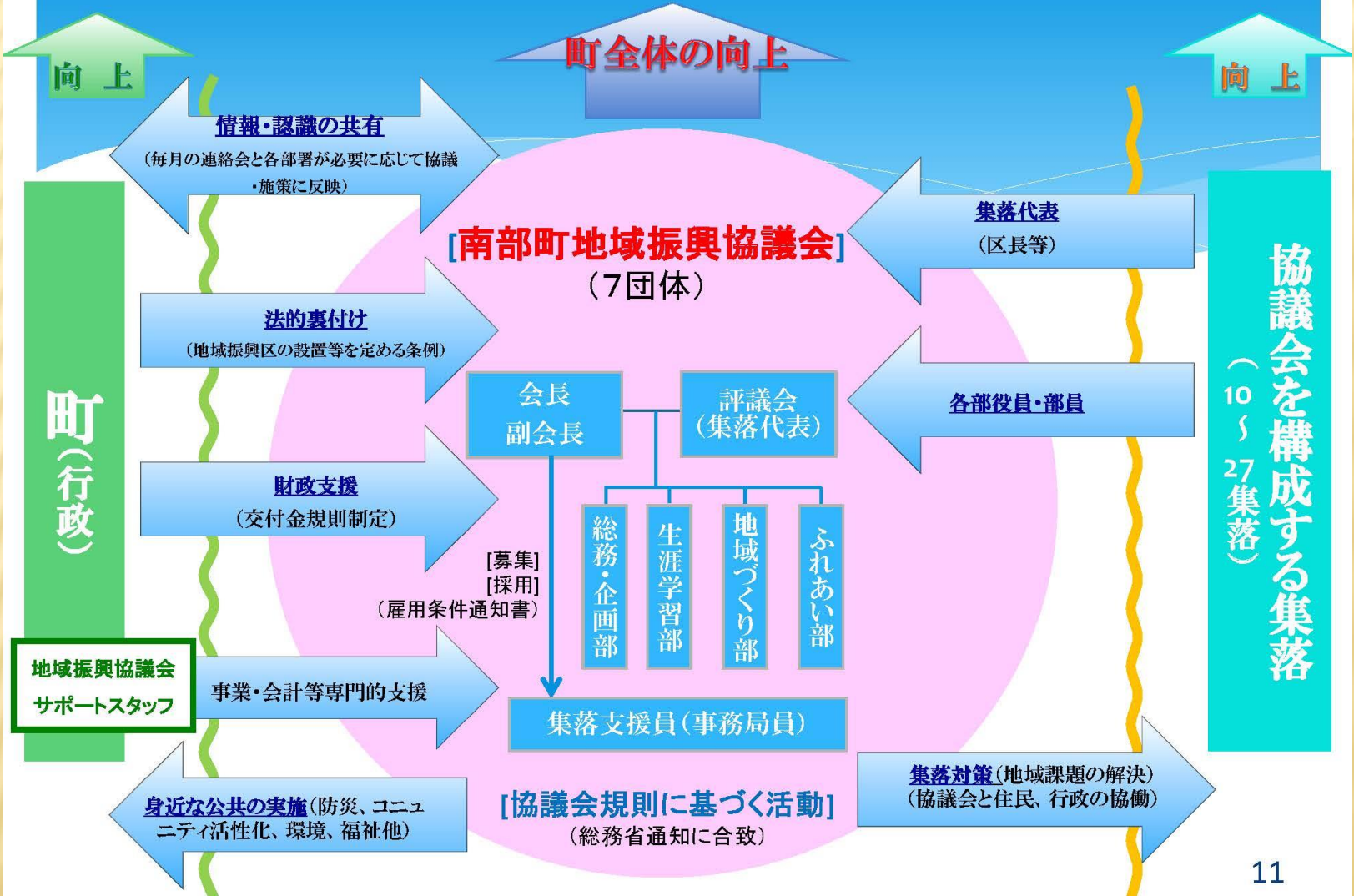


「協働」の構造

- それぞれ独自の思いの部分がある。
そこは共有できないが、**理解し合う**ことが必要。

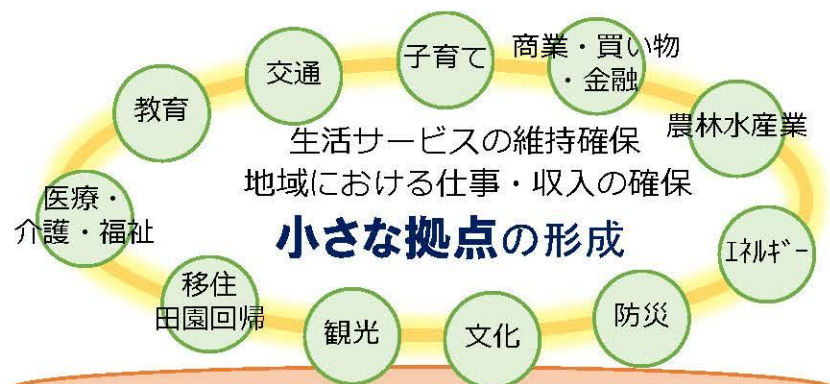


南部町7地域振興協議会と集落(住民)、行政との連携フロー



「小さな拠点」及び「地域運営組織」の形成推進

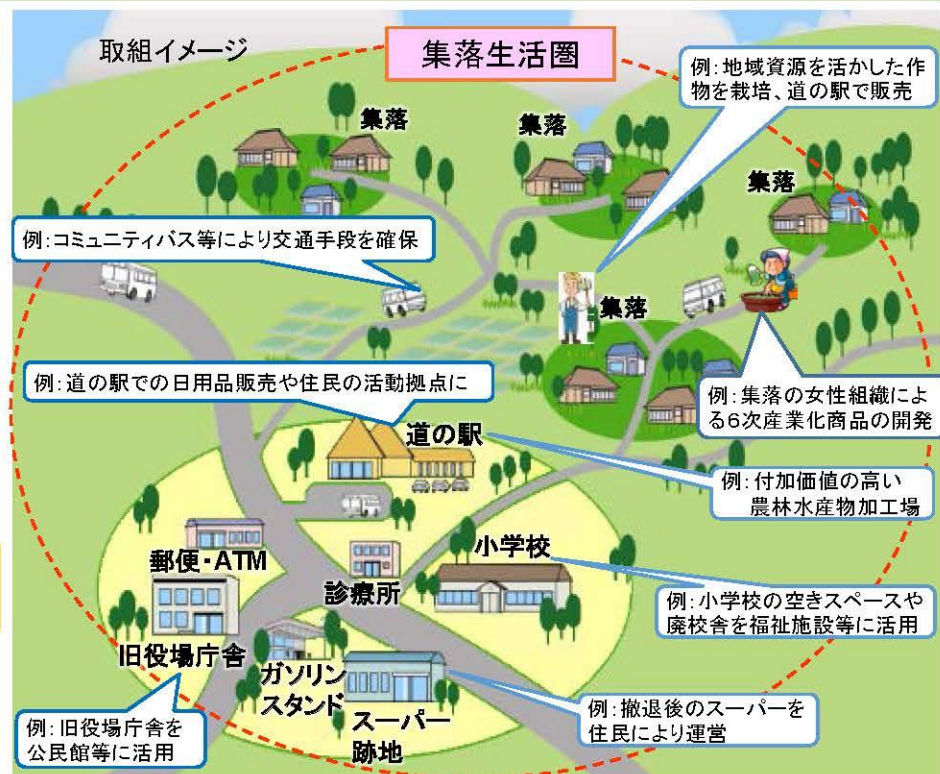
- 中山間地域等において、将来にわたって地域住民が暮らし続けることができるよう、必要な生活サービスの維持・確保や地域における仕事・収入を確保し、将来にわたって継続できるような「**小さな拠点**」の形成(集落生活圏を維持するための生活サービス機能の集約・確保と集落生活圏内外との交通ネットワーク化)が必要。
- あわせて、地域住民自らによる主体的な地域の将来プランの策定とともに、地域課題の解決に向けた多機能型の取組を持続的に行うための組織(**地域運営組織**)の形成が必要。
- 2020年までに小さな拠点を全国で1,000箇所(2017年5月:908箇所)、地域運営組織を全国で5,000団体(2016年10月:3,071団体)形成する。



住民主体の地域課題の解決に向けた地域運営組織の形成

人材の育成・確保、資金の確保、事業実施ノウハウの取得、法人化の促進等

優良事例の横展開、人材・情報交流のためのプラットフォームづくり



中山間地域をはじめとして、暮らし続けられる地域の維持

(内閣府資料より転載)

起源の1つ：雲南市「地域自主組織」

地域自主組織(一覽)

■面積規模

0.85~73km²程度
(平均約18.45km²)

■人口密度

10~925人/km²程度
(平均193人/km²)



■人口規模

200人弱~6000人程度
(平均約1350人)

■世帯数

60弱~1900世帯程度
(平均約440世帯)

平成27年度
大賞(総務大臣賞)表彰式



地域自主組織って何!?

～自治会(集落)との違い～



現在、各地域において地域自主組織の設立の取り組みがなされているところですが、そもそも地域自主組織とは何か？何か分かりづらい!!との声があります。この地域自主組織についていっしょに考えてみましょう。

雲南市役所

地域振興課・総合センター自治振興課

今なぜ 地域自主組織なのか？

(1) 今、住民が自立するチャンス！



今こそ、住民の力が発揮できるチャンス！自分達の手で快適な生活や収益を得る取り組みを始めましょう。

基本は、「住民の発想を自らが実践する」ということ。行政の肩代わりを押しつけられるではありません。

<住民ができること(行政にはできないこと)>

- ①生活者ならではの発想や課題を出し合おう！
- ②地域の魅力を発見しよう！
- ③生きがいや充実を感じる活動を始めよう！

「自分の思っていたことが動きになった」という喜びは、きっと自信や誇りにつながるでしょう。

(2) 集落(自治会)の役割と限界

地域内の組織には集落(自治会)があります。地域活動の担い手として大きな役割を果たしてきた集落も、現代に合わせて少しずつ方法を変えていくことも必要です。

<集落の性質>

- ①会合には主に世帯主が出席。…「1戸1票制」
→男性の年配者による発想で物事を考える。
- ②会合の内容を家族に伝えることが少ない。
→女性や若者が考え、意見を言う機会がない。
- ③代表者は持ち回り(輪番制)。
→新しいことに積極的に取り組むことが難しい。

(3) 新たな地域運営母体「地域自主組織」

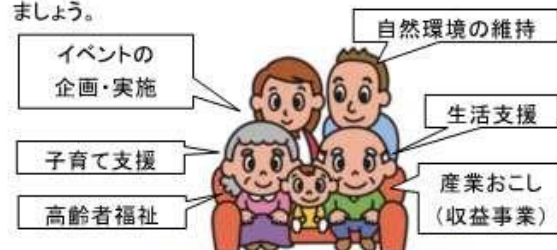
雲南市では、住民の思いを形にする手段として「地域自主組織」を推進しています。これは、様々な住民が楽しく関わるのできるものとして期待が高まっています。市内に全部で44地区あり、そのうち24地区で組織が立ち上がっています。(平成18年3月末 現在)

多様な活動を行うには**担い手が必要**です。そのため、「地域自主組織」は一定量の人口を確保できる公民館区や小学校区、あるいは数集落を単位としているものが多いです。ただし、**重要なのは規模ではなく、しくみ**です。

<「地域自主組織」に必要なしくみ>

- ①「1戸1票制」を打破し、子どもや若者、女性など幅広い世代が関わる「1人1票制」を実現する。
- ②生活の維持、福祉、楽しみの実現、産業振興など、幅広い分野の活動を進める。
- ③課題ごとに部会を設けるなど、住民1人ひとりが「気軽に取り組める」、「楽しく取り組める」、「やる気を出せる」しくみをつくる。

町や地区ごとに歴史や特徴があります。従って、他の事例を真似しても成功するとは限りません。「地域自主組織」は、まず**様々な世代の住民がしっかりと話し合いを行うことが基本**です。マイペースで楽しみながら進めていきましょう。



地域自主組織

(雲南市資料より転載)

地域自主組織の活動のポイント

1 様々な世代が関わる機会をつくる

地区には子ども、お年寄り、男性、女性など様々な立場の人が住んでいます。みんなが参加できる機会を多くつくれば、活動にも深みが出て楽しくなります。

まずは**住民がどのような考えを持っているのか**を把握することが有効です。さらに、**地区内の良いところや課題**を、見方の異なる人たちの目で探してみましょう。

<様々な住民の意見を聞く方法(例)>

- ①子どもからお年寄りまでを対象とした**全員アンケートの実施**。
- ②**世代別意見交換会の開催**。(20歳代以下、30～40歳代、50～60歳代、70歳代以上、など)
- ③**地区の地図を見ながら、良いところや問題点を探す**。
- ④**みんなで地区内を歩いて、実際に目で見て点検作業を行う**。

例を参考に、地区に合った方法を実施してみてください。



話し合い活動(ワークショップ)の風景

2 活動がリーダーを育てる

リーダーの存在は確かに大きいですが、リーダー1人が頑張っても地区は動きません。地区には様々な人が存在し、みんな何かの特技を持っています。**住民それぞれの得意技を活かす活動や役割**を考えれば、住民1人ひとりがその道のリーダーとして活躍することができます。**組織づくりや活動を通してリーダーが育ちます**。



3 地区内の情報流通を進める

地域自主組織の理念、目標、組織の構成などは、これからの話し合いによってつくられていくと思います。その過程を地区内に知らせることが重要です。

情報発信を行う時、地区外部への働きかけを考えがちですが、最初の段階では**地区内部への情報の流通**の方が何倍も重要になります。

検討や活動の内容が十分に伝わっていないと...



検討や活動の内容を知らせることができれば...



世帯主以外の方にも情報を届けるには、**地区内向けの情報紙の発行が有効**です。固い話だけではなく、**地区の良いところを紹介や、子どもにも読みやすい表現を考えてみましょう**。

雲南市では「地域自主組織」の検討が始まったばかり。地区の実情や若い世代の意見を十分につかみ、住民同士が議論しながら、地区がもっと好きになる仕組みを考えてみてください。まずは楽しみを織りまぜながら話し合いを始めましょう!



「地域自主組織」に関するお問い合わせは...

雲南市地域振興課	電話 0854-40-1013
大東総合センター自治振興課	電話 0854-43-8168
加茂総合センター自治振興課	電話 0854-49-8601
木次総合センター自治振興課	電話 0854-40-1080
三刀屋総合センター自治振興課	電話 0854-45-2111
吉田総合センター自治振興課	電話 0854-74-0211
掛合総合センター自治振興課	電話 0854-62-0300

[2006年4月発行]

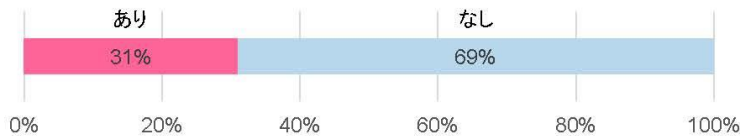
(雲南市資料より転載)

ポイント1 広域化：小学校区程度の範囲

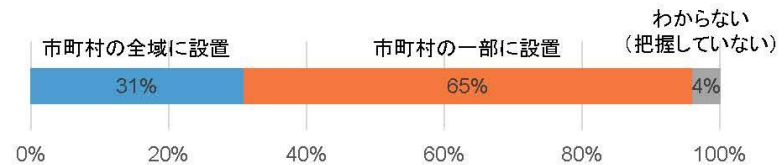
地域運営組織に関する実態

- 総務省の調査によると、有効回答1,590市町村中の494市町村(31%)で地域運営組織が組織されている。組織数は全国で1,680団体
- 地域運営組織が組織されている494市町村のうち、市町村の全域に設置されている市町村は31%
- 地域運営組織の活動範囲については、小学校区が35%と最も多い

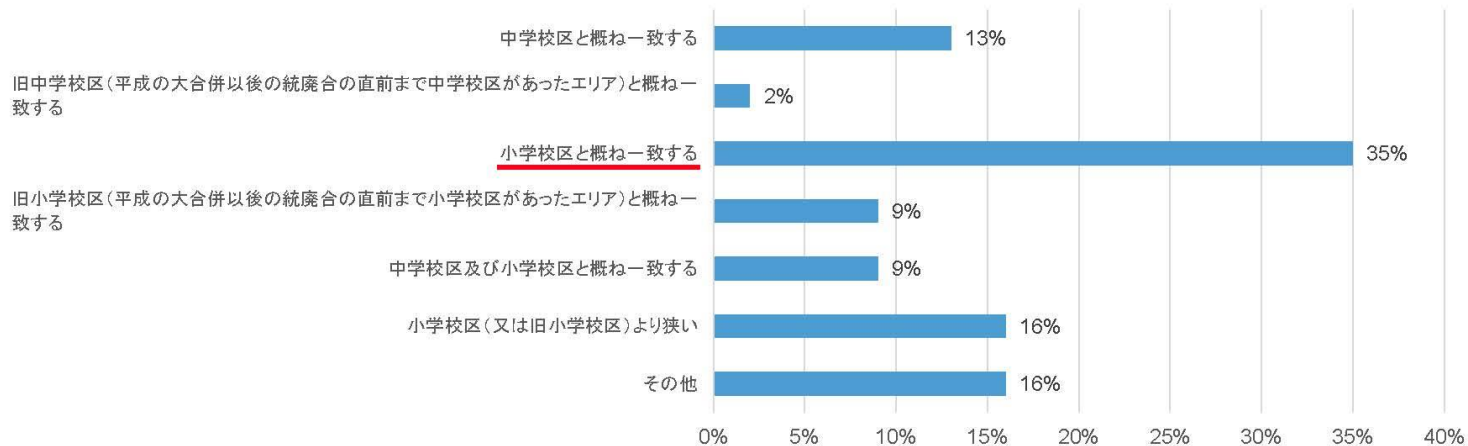
■地域運営組織の有無 (有効回答:1,590市町村)



■地域運営組織の設置状況 (地域運営組織のある市町村数:494市町村)



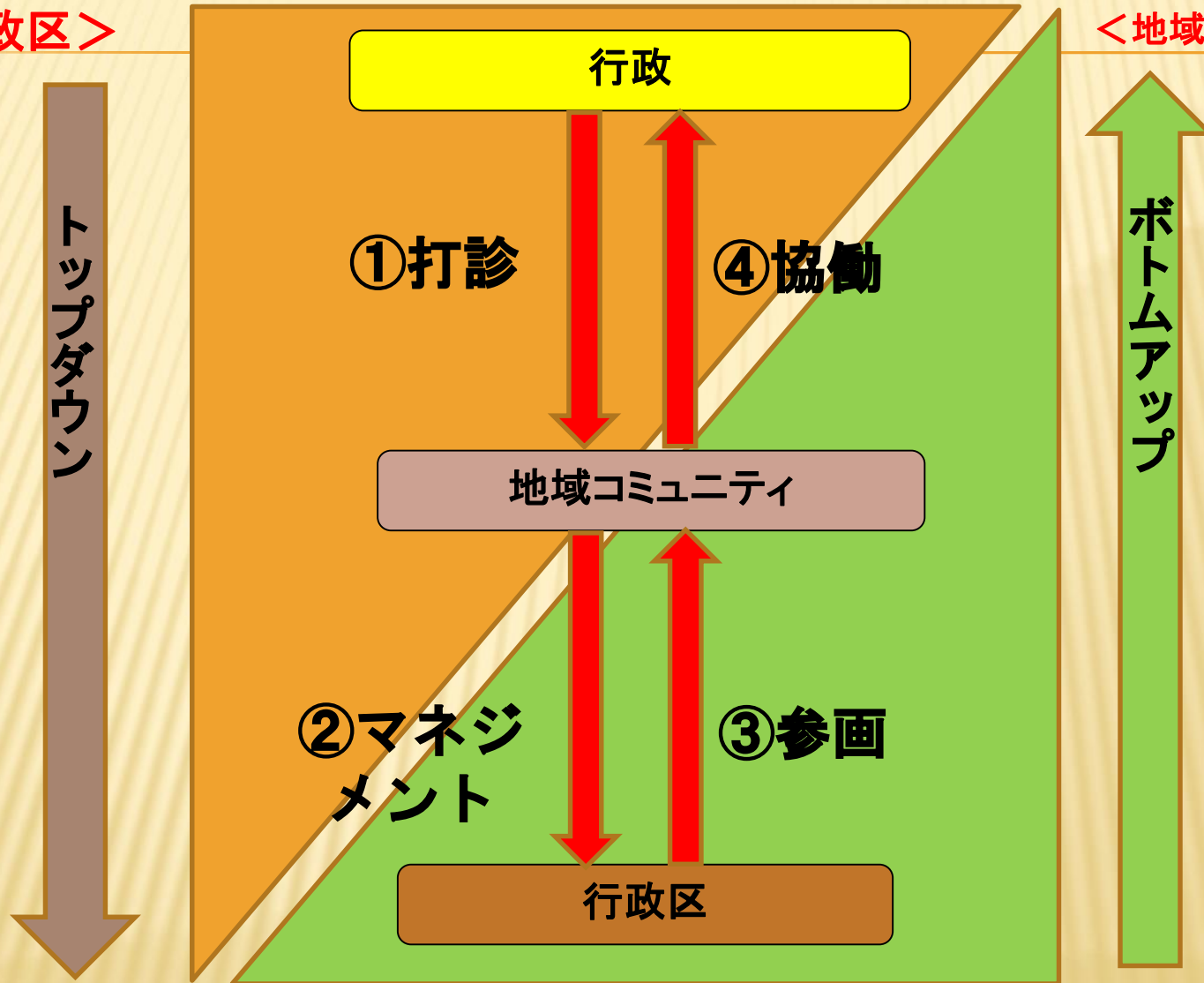
■地域運営組織の活動範囲と学区の関係性 (地域運営組織数:1,680団体)



ポイント2：ボトムアップの仕組みづくり

<行政区>

<地域コミュニティ>



トップダウン

ボトムアップ

行政

① 打診

④ 協働

地域コミュニティ

② マネジ
メント

③ 参画

行政区

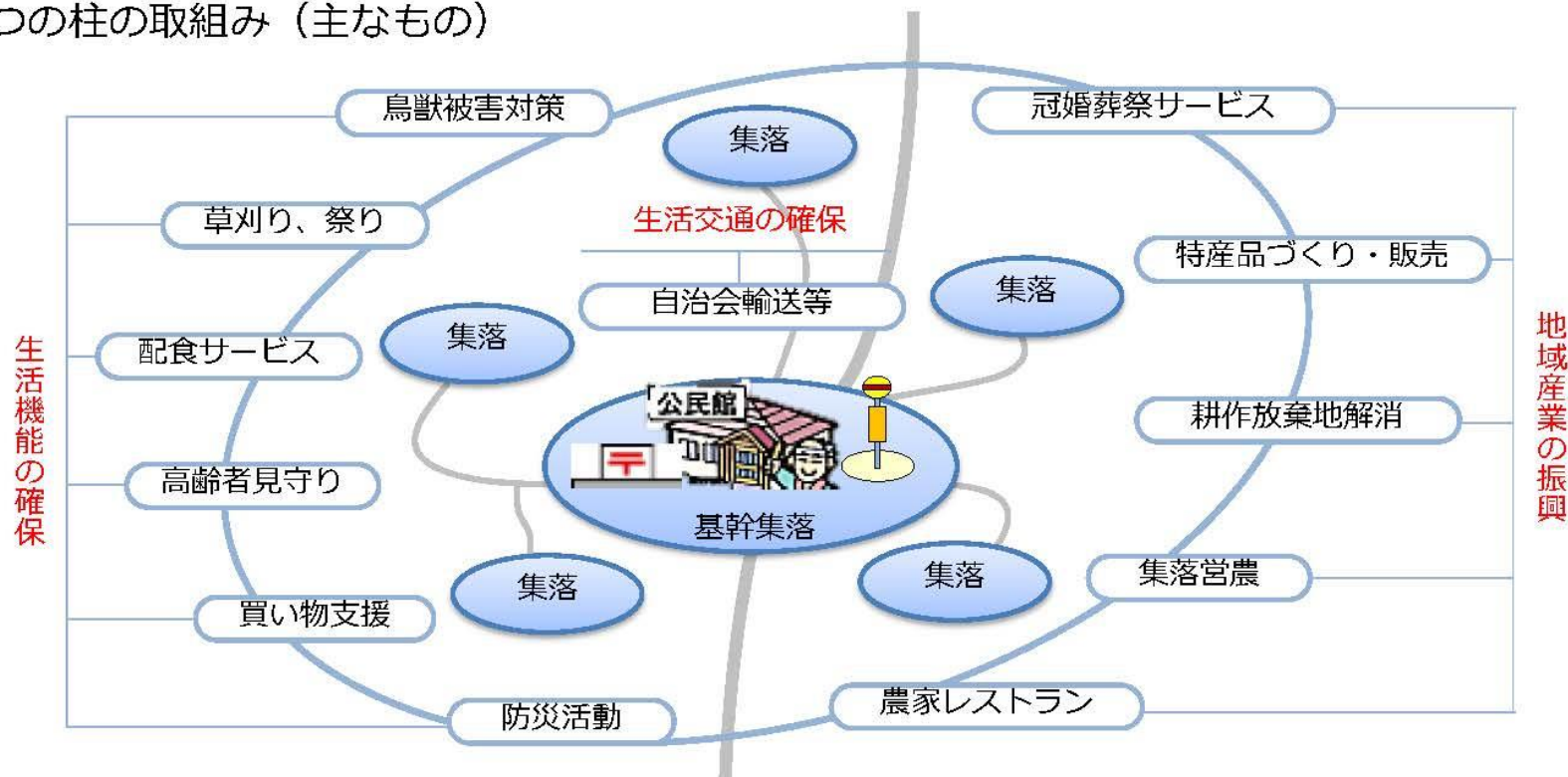
ポイント3：課題解決・魅力発信を行う仕組みづくり

配布資料

公民館エリア（旧小学校区）を基本とし、住民のみなさんの話し合いを通じて、日常生活に必要な機能やサービスを確保したり、地域の資源を活用し、しごと・収入を確保する取組として

・「生活機能の確保」 ・「生活交通の確保」 ・「地域産業の振興」
の3つの柱の**仕組みづくり**を進めます。

■ 3つの柱の取組み（主なもの）



地域課題の解決（「守り」）＋地域資源の活用（「攻め」）

ポイント4：多様な主体が参画する仕組みづくり

<行政区>

- ・ 階層型組織
- ・ 上意下達
- ・ 強い結合
- ・ 機動性に欠く対応
- ・ 域外参入困難



多様な主体の参画

地域住民



多様な主体の参画

<地域コミュニティ>

- ・ ネットワーク型組織
- ・ 合意形成
- ・ 緩やかな結合
- ・ 柔軟に対応
- ・ 域外参入可能



行政区では地域課題解決には限界がある 地域コミュニティは実行しやすい

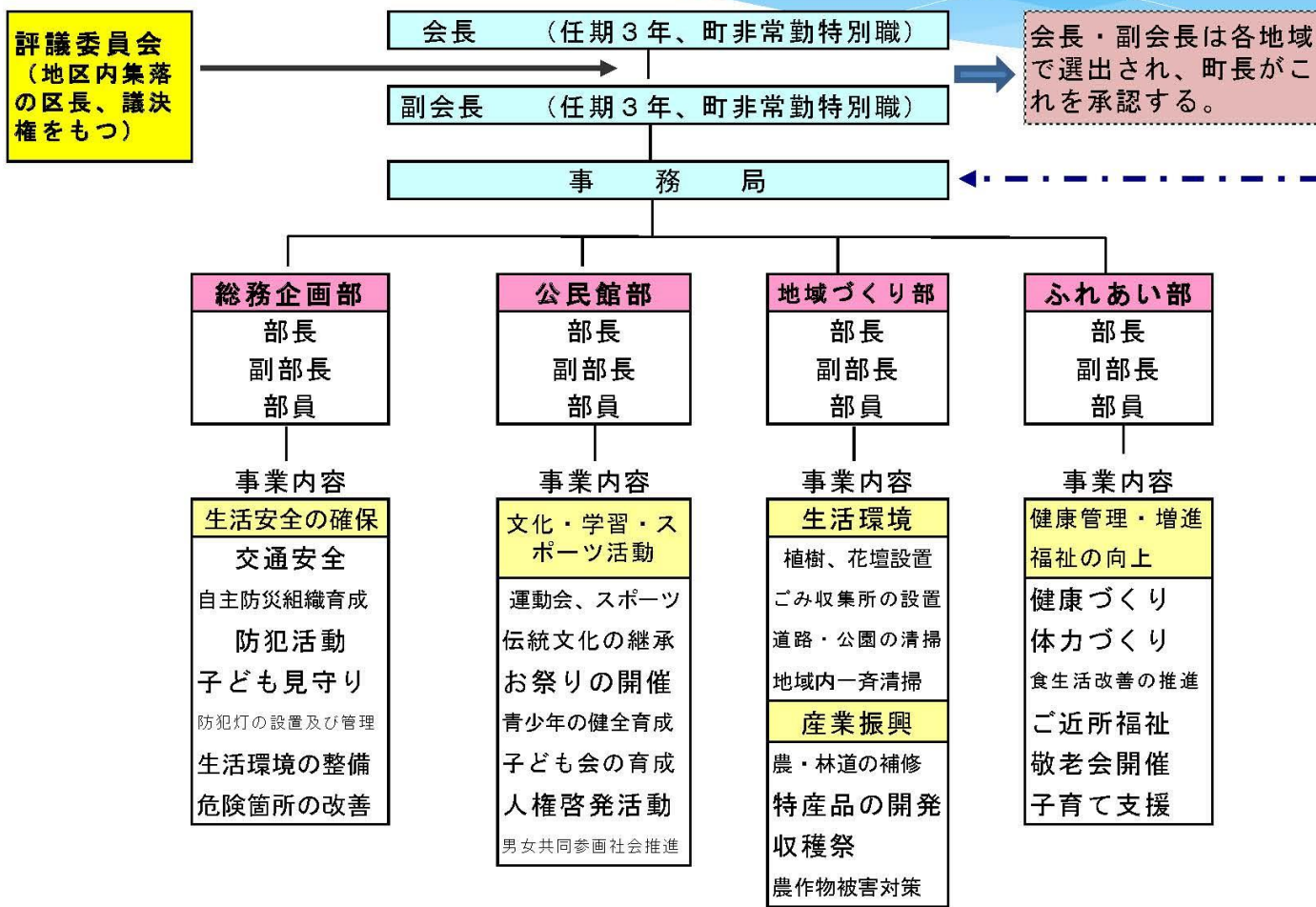
住民自治協議会のイメージ



(千葉県香取市資料より転載)

ポイント5 部会制による意思決定の迅速化

組織体制及び共通する活動分野



地元採用の事務局員2名

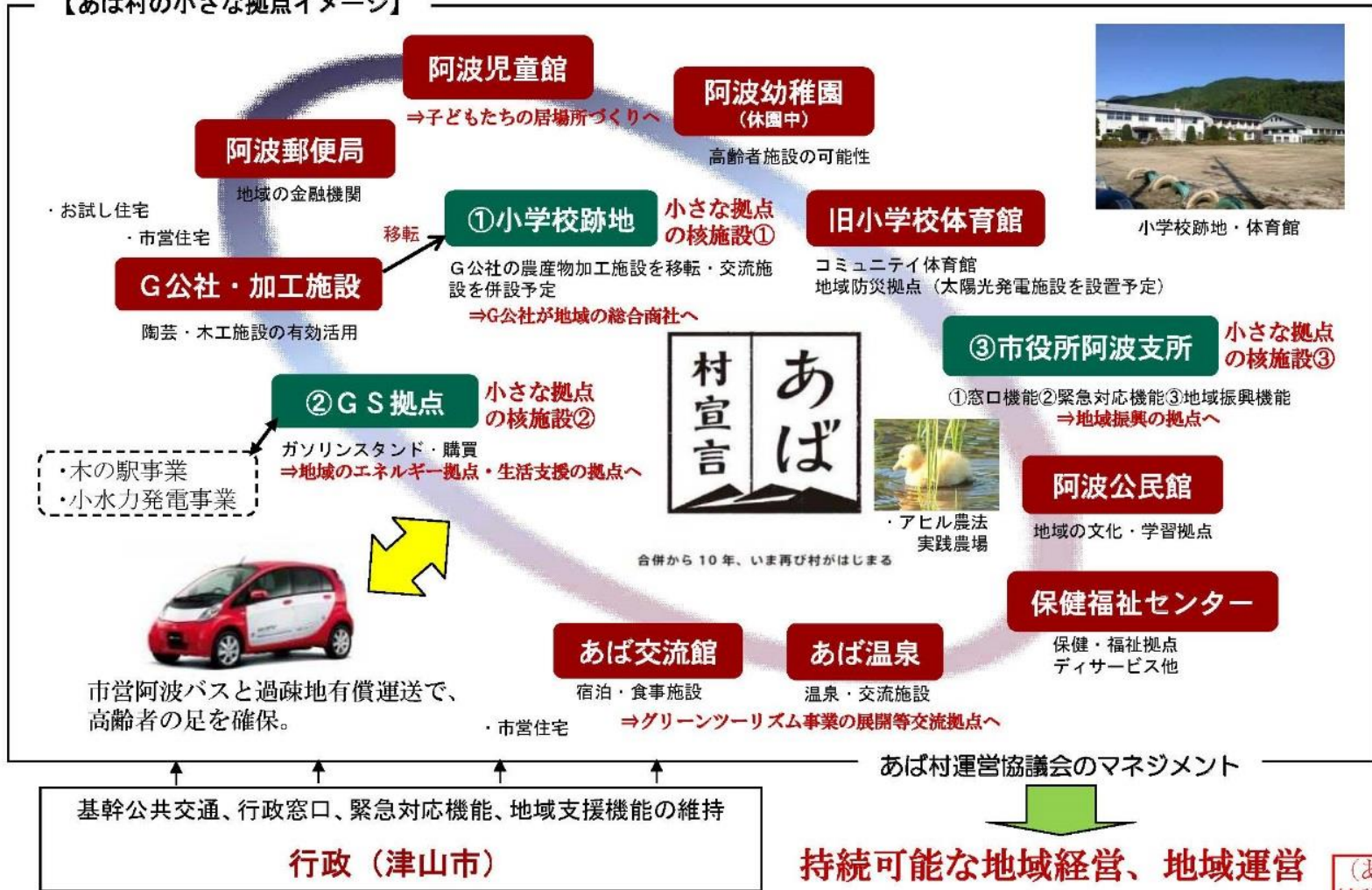
(南部町資料より転載)

キーワードは「つなげる」

配布資料

③拠点内施設のネットワーク化と「小さな拠点」の啓発

【あば村の小さな拠点イメージ】



(あば村運営協議会資料より転載)

ポイント6：行政区（集落）との相互補完の仕組みづくり

<町内会・集落が得意な役割>

○生産補完機能

- ・手間替え
- ・水路管理

「守り」

○相互扶助機能

- ・冠婚葬祭
- ・助け合い見守り

○資源管理機能

- ・集落財産の管理
- ・草刈り，道普請

<地域運営組織が得意な役割>

- ・農地保全・森林管理

- ・子育て支援

「攻め」

- ・Uターン促進

- ・都市・農村交流 等

<いずれも可能>

- ・防犯活動
- ・地域防災活動
- ・地域福祉
- ・高齢者支援等
- ・サロン活動
- ・環境保全活動等

なぜ行政区・区長会ではいけないのか？

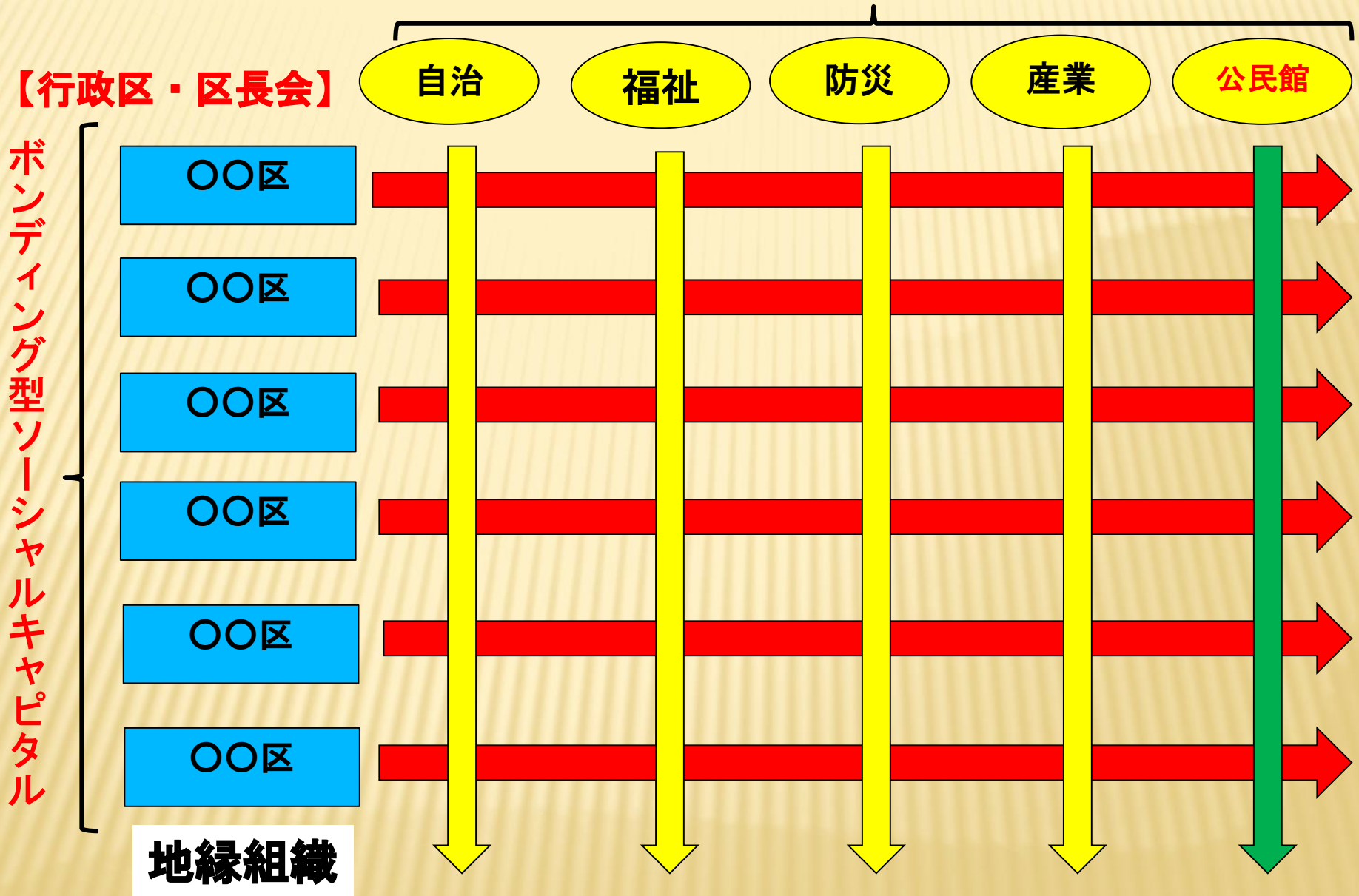
	行政区・区長会 (イエ連合)	地域コミュニティ (個人の集合体)
範域	狭域 (集落・町内等)	広域 (地区=公民館・小学校区)
住民参画方法	世帯単位 (1戸1票制)	世帯・組織・個人 (1人1票制)
運営方法	総会制・満場一致	部会制・合意形成
運営費	会費中心	事業費+会費
得意技	「守り」	「攻め」
コミュニケーション	対面・電話	メール・SNS

ソーシャル・キャピタル

ボンディング型

ブリッジング型

【地域コミュニティ】ブリッジング型ソーシャルキャピタル



タテ系とヨコ系により地域の力を強化

中島みゆき「糸」

なぜ**コミュニティを作る**のかを
私たちは なにも知らない
いつ **組織ができる**のかを
私たちは いつも知らない

どこにいたの 生きてきたの
同じ地域の下 ふたつの**組織**

縦の糸は**協議会**、横の糸は**区長会**
織りなす**地域**は いつか誰かを
暖めうるかもしれない

なぜ **コミュニティを作る**のかを
迷った日の跡の ささくれ
夢追いかけて走って
ころんだ日の跡の ささくれ

コミュニティが なんになるの
心許なくて ふるえてた風の中

縦の糸は**協議会** 横の糸は**区長会**
織りなす**地域**は いつか誰かの
傷をかばうかもしれない

縦の糸は**協議会** 横の糸は**区長会**
逢うべき糸を **つむぎ合う**ことを
人は **地域づくり**と呼びます

特集 人口減少社会と「地域運営組織」

住民主体の「地域運営組織」と自治体の役割

鳥取大学地域政策学部長

作野広和

個々の地域が光り輝くことによって、市町村全体の価値が高まる。そのような意味では、自治体がどのように地域運営組織に関わっていくかによって、自治体の持続可能性を左右することになる。自治体がいかに地域運営組織をあるべき姿に導いていくのか、真価が問われるところである。



多くの研究を経て、1992年鳥取県生まれ。鳥取大学大学院文学研究科修士、鳥取大学教育学部修士を経て、2014年同校教授。専門は「地域運営組織の形成及び持続性の促進に関する研究」など。鳥取県「山間地山僻地研究センター」の所長、兵庫県豊岡市建設コミュニティアドバイザー等。専門は、農業・農村政策、環境・山間地・地方の再生に関与している。また、鳥取大学・地域政策の推進に力を入れている。鳥取県立大学、鳥取県立短期大学、鳥取市に研究家の分室「作野」を設ける。

「平成の大合併」を契機とした地域運営組織の設立

地域運営組織の設立が広まった背景には、過疎化、少子化、高齢化などにより地域課題が噴出する一方で、地域運営の担い手が減り、既存の自治組織では課題解決に至らなくなってきた地域実態がある。とりわけ、その直接的なきっかけとなったのは「平成の大合併」である。これまで「平成の大合併」で多くの市町村が合併した。市町村の領域が広域化し、それまで自治体等が担ってきた「公」の役割が実質的に担えなくなると、住民自身で解決できるを得なくなった。地域運営組織とは、端的に言えば「自分たちの地域を自分たちでつくっていくための組織」

と表現することができるであろう。

ところが、「平成の大合併」は地域運営組織が広まっていた契機と過言できない。地域運営組織の設立は、団体自治組織である自治体と住民自治組織との関係性を新しいステージに導くステップであると捉えることができる。そこで、本稿では地域運営組織の設立段階に応じて、自治体が果たす役割について論じる。

ここでは、地域運営組織の構築段階を、(1)検討段階、(2)形成段階、(3)活動段階、(4)発展段階の4段階に分けて整理する。ただし、地域によって、これから新たに立ち上げる組織であれば、法人格を取得して独立して活動している組織もある。したがって、地域運営組織は必ずしも(1)

(4)の順で構築されていくとは限らない。各地域によって、構築段階の順序は多様であるが、あえて整理すれば、(1)→(2)→(3)→(4)の順と、(1)→(3)→(2)→(4)の順が主要な道筋といえるだろう。それぞれの地域性に応じたステップを歩んで欲しい。

十分な話し合いが求められる「検討段階」

地域運営組織の設立検討は、自治体が主導で設置される場合、地域内で発議される場合、既存の組織が結果的に地域運営組織となる場合など、多様である。いずれの場合であっても、この段階で十分な検討や、試行錯誤を繰り返すことが肝要である。ただし、検討期間を長く過ぎ過ぎたり、試行錯誤の結果、迷走した

りする可能性もあるため、対応に柔軟に行う必要がある。

自治体が主導する場合、行政職員のみで検討することはリスクが高い。地域実態に詳しい学識者などをリサーチし、地域住民、地域関連組織（NPO等）や「社会福祉協議会等」への検討することがポイントである。兵庫県豊岡市では、地域運営組織に詳しい学識者を委員長に「あり方検討委員会」を組織し、「そもそも何のために、2年間の期間に20回の委員会を開催し、「あり方方針」(図1)を作成するとともに、地域運営組織設

図1 兵庫県豊岡市「新しい地域コミュニティのあり方方針」(2016年)



立ちのためのガイドブックや、事例集などを作成していった。

また、地域においても、十分な「学び」が必要である。講演会、意見交換会、視察等を通じて、住民が地域運営組織の存在を知り、その意義を理解していくことは不可欠である。自治体は、こうした「学び」が行えるよう、助成金制度を設けたり、行事開催のコーディネートを積極的に進めたりする必要がある。

②地域の納得が得る「形成段階」
地域運営組織の成否の鍵を握っているのは、この段階である。期限を定めて推進に準備を行ったり、地域住民の十分な理解と納得が得られずに設立したりした場合、軌道修正を行うのに多大な努力を要してしまう。この段階においては、自治体も住民も慎重な行動を必要とする。

地域運営組織の設立を自治体主導で行うのか、住民主導で行うのかについては、地域が置かれた状況によ

つて異なる。一般的に、地域住民は変革を忌避する傾向にあるので、新たな組織を設立する場合は、自治体主導が多い。一方、自治体主導するも、自治体内全域において強い組織を設置させて十分な傾向が強い。月並みな表現だが、「地域の実際に応じた」組織を設立していくことが望まれる。

それでは、「地域の課題」とは何を指すのか。地域がどのような課題や可能性を有しているのかを知ることが必要である。歴史的背景、社会的・経済的要因などを十分に踏まえる必要がある。歴史的要素とは、地域が形成された過程や、災害・疫病の経緯、地域を揺るがすような事件の有無や他地域との関係性などが考えられる。宗教的要素としては、神社の氏子團、神社における世帯間での善悪、寺院の檀家関係、新興宗教等の伝播状況などが考えられる。社会的な要素としては、世帯間の関係(例えば、本家・分家関係など)、学校区、保護者の人間関係、地域住民の有力者の存在を押しやる必要がある。経済的要因としては、土地所有形態、共有地、財源区の有無、共有財産の管理状況、世帯経済の格差等を認識する必要がある。

これらの要素は、地域住民でないし知り得ない情報かもしれない。しかし、自治体も地域に関与していく過程では、これらの情報がある程度把握する必要がある。それぞれの地域には、それぞれの「捉」のようなものも存在しており、それを無視して地域運営組織を設立することは困難である。

③活動資金を確保していくこと、④活動メンバーを拡充していくこと、などが考えられる。

①については、形成段階が既に3年とすると、4年目以降の活動段階への入口がポイントとなる。形成段階は地域住民と自治体の双方に責任感と緊張感があり、活動実績は概ね伴われるが、それ以降は組織の存在そのもののへる懸念、活動のマンネリ化、中心メンバーの疲労感等、地域運営組織存続の危機が訪れる。このような状況をあらかじめ想定して、自治体は地域運営組織間の話し合い・研修の場の設置、アドバイザーの派遣、相談窓口の設置等が求められる。

②については、地域運営組織自体が集めることも重要であるが、自治体が一程度インセンティブとしての活動資金を用意する必要がある。多くの地域で、「定額配分」と「人口割配分」とに分け、地域運営組織の規模に応じた配分を行っている。これらに加えて、「競争的配分」を用意し、「がんばる地域が一層がえられる」仕組みが必要である。また、各組織間の団体や民間企業が用意しているファンドを積極的に活用することが求められる。そのため

図2 構築段階に応じた自治体による地域運営組織への支援内容(兵庫県豊岡市)



には、申請書の作成や、プレゼンテーションに対応できるように学習機会を用意すること、おおむね積極的提示が求められる。

④については、地域内の風通しをよくすることが可能となる。そのためは、地域住民だけが限界があり、地域外の住民や組織、企業の人材を関わる必要がある。具体的には、地域おこし協力隊の投入や組織・企業を招いた協働隊の投入やの開催など、自治体が果たす役割は大きい(図3)。

このころで、設立段階において実施すべきことを以下に簡潔に記す。まず、地域課題・地域資源の洗い出しと地域組織の洗い出しという、いわゆる「地域の棚卸」を行う必要がある。続いて、地域課題の解決並びに地域資源の活用にもっとも強い組織の構成を検討していく。その際、既存の町内会・自営会との関係が十分に考慮する必要がある。

組織構成がイメージできた後に、組織構築を検討していく必要がある。すなわち、地域運営組織は具体的にどのような主体(組織・人物)が運営していくのかに注目があがる。その際、しばしば「リーダー」の必要性が論じられるが、大切なことは、リーダーとなる人物ではなく、リーダーシップがとれる環境であることを忘れてはならない。言い換えば、地域の構成員が、それぞれの立場で「やりたいこと」が出来る「環境を形

成することが大切である。さらに、地域運営組織にとって最も大切なのは事務局の存在であり、事務局が円滑に機能すること(以下「事務局機能」と称する)が大前提である。現状では対応した新しい地域運営組織は、従来組織の「記憶」による伝達から「記録」による伝達が必要と定めてくる。会議におけるレジュメの作成、自治体等への依頼、報告文書、資金調達のためソファット申請作成、情報の発信等、従来の組織が苦手としてきたことを行う必要がある。事務局機能は、こうした事務的仕事に留まらない。地域を住民の主体的な把握に把握し、その時々に応じた差配を行う必要がある。いわば、地域をマネジメントしていく必要がある。このように、地域運営組織の事務局は、地域をそのもの事務局機能を有しており、自治体は人材育成や、人件費の確保など、重要な役割を果たす必要がある。

③活動資金を確保していくこと、④活動メンバーを拡充していくこと、などが考えられる。

①については、形成段階が既に3年とすると、4年目以降の活動段階への入口がポイントとなる。形成段階は地域住民と自治体の双方に責任感と緊張感があり、活動実績は概ね伴われるが、それ以降は組織の存在そのもののへる懸念、活動のマンネリ化、中心メンバーの疲労感等、地域運営組織存続の危機が訪れる。このような状況をあらかじめ想定して、自治体は地域運営組織間の話し合い・研修の場の設置、アドバイザーの派遣、相談窓口の設置等が求められる。

②については、地域運営組織自体が集めることも重要であるが、自治体が一程度インセンティブとしての活動資金を用意する必要がある。多くの地域で、「定額配分」と「人口割配分」とに分け、地域運営組織の規模に応じた配分を行っている。これらに加えて、「競争的配分」を用意し、「がんばる地域が一層がえられる」仕組みが必要である。また、各組織間の団体や民間企業が用意しているファンドを積極的に活用することが求められる。そのため

には、申請書の作成や、プレゼンテーションに対応できるように学習機会を用意すること、おおむね積極的提示が求められる。

④については、地域内の風通しをよくすることが可能となる。そのためは、地域住民だけが限界があり、地域外の住民や組織、企業の人材を関わる必要がある。具体的には、地域おこし協力隊の投入や組織・企業を招いた協働隊の投入やの開催など、自治体が果たす役割は大きい(図3)。

成ることが大切である。さらに、地域運営組織にとって最も大切なのは事務局の存在であり、事務局が円滑に機能すること(以下「事務局機能」と称する)が大前提である。現状では対応した新しい地域運営組織は、従来組織の「記憶」による伝達から「記録」による伝達が必要と定めてくる。会議におけるレジュメの作成、自治体等への依頼、報告文書、資金調達のためソファット申請作成、情報の発信等、従来の組織が苦手としてきたことを行う必要がある。事務局機能は、こうした事務的仕事に留まらない。地域を住民の主体的な把握に把握し、その時々に応じた差配を行う必要がある。いわば、地域をマネジメントしていく必要がある。このように、地域運営組織の事務局は、地域をそのもの事務局機能を有しており、自治体は人材育成や、人件費の確保など、重要な役割を果たす必要がある。

③自治体の支援が求められる「活動段階」
活動段階とは、設立された地域運営組織の活動が一定レベルで軌道に乗るとともに、活動が継続的に進行するための諸行諸状が整った段階である。この段階で重要なのは、①活動

②地域の納得が得る「形成段階」
地域運営組織の成否の鍵を握っているのは、この段階である。期限を定めて推進に準備を行ったり、地域住民の十分な理解と納得が得られずに設立したりした場合、軌道修正を行うのに多大な努力を要してしまう。この段階においては、自治体も住民も慎重な行動を必要とする。

③活動資金を確保していくこと、④活動メンバーを拡充していくこと、などが考えられる。

①については、形成段階が既に3年とすると、4年目以降の活動段階への入口がポイントとなる。形成段階は地域住民と自治体の双方に責任感と緊張感があり、活動実績は概ね伴われるが、それ以降は組織の存在そのもののへる懸念、活動のマンネリ化、中心メンバーの疲労感等、地域運営組織存続の危機が訪れる。このような状況をあらかじめ想定して、自治体は地域運営組織間の話し合い・研修の場の設置、アドバイザーの派遣、相談窓口の設置等が求められる。

②については、地域運営組織自体が集めることも重要であるが、自治体が一程度インセンティブとしての活動資金を用意する必要がある。多くの地域で、「定額配分」と「人口割配分」とに分け、地域運営組織の規模に応じた配分を行っている。これらに加えて、「競争的配分」を用意し、「がんばる地域が一層がえられる」仕組みが必要である。また、各組織間の団体や民間企業が用意しているファンドを積極的に活用することが求められる。そのため

には、申請書の作成や、プレゼンテーションに対応できるように学習機会を用意すること、おおむね積極的提示が求められる。

④については、地域内の風通しをよくすることが可能となる。そのためは、地域住民だけが限界があり、地域外の住民や組織、企業の人材を関わる必要がある。具体的には、地域おこし協力隊の投入や組織・企業を招いた協働隊の投入やの開催など、自治体が果たす役割は大きい(図3)。

真面目が問われる自治体による地域運営組織への関わり

2015年度に多くの自治体が策定した、人口ビジョンに基づく地方版総合戦略は、17年度で早くも折り返し地点を迎える。多くのアイデアを結果した総合戦略はどうかといえ、一「攻め」の視点が強い。これに対し、これまで連綿と続いってきた地域を今後とも維持していくための「守り」の要が地域運営組織である。当然のことながら、地域運営組織を設立したり、組織を維持したりすることは手段であり、持続可能な地域づくりと地域住民の「幸せ」を実現させることが目的である。各自治体は、「組織を作った後」にどうするのではなく、地域住民と対等な立場で、未来水勘にわたり責任をもって歩み続けていく必要があることを忘れてはならない。そして、個々の地域が光り輝くことにより、市町村全体の価値が高まることを常に意識する必要がある。そのような意味では、自治体はどのように地域運営組織に関わっていくかによって、自治体の持続可能性を左右することに繋がる。自治体がいかに地域運営組織をあるべき姿に導いていくのか、真面目が問われるところである。

**IV 新しい地域コミュニティの具体像
（具体例で説明した方がよいかも知らない）**

地域コミュニティに関する豊岡市の現状

■有利な点

- 1) 地域コミュニティの「あり方」については完成
- 2) 地区単位を再検討する必要がない
- 3) 従来からの公民館活動が存在
(合併後、地区公民館がない地区に公民館を設置した)

■不利な点

- 1) 地域的多様性が存在（大半の市町村）
都市的地域，中間地域，山間地域
- 2) 地区単位による自治の発想が薄い
区長会は組織化されているが，公民館や校区活動とはリンクなし
- 3) 組織関係者は主旨をおおよそ理解しているが住民の理解は薄い
- 4) 出役に関して「金」が絡んでいる
- 5) そもそも「困っていない」という発想が支配的
→「わが事化」が必要

豊岡市でしばし聞く 3つの「ノー」

- 「わからへん」
→ わかろうとしない
- 「できれへん」
→ やろうとしない
- 「金がない」
→ お金があってもやらない

地域コミュニティの意義を正確に理解すべき



地域コミュニティビジョンを策定する必要性

地域コミュニティ組織

A理想型

顧問

副会長

会長

監事

事務局
地域マネージャー

自治運営部

安全・安心部会

地域福祉部会

交流企画部会

経済産業部会

地域活動諸団体

区長会

行政区

行政区

行政区

行政区

行政区

地域コミュニティ組織

B行政区代議員型

代議員会

会長

副会長

監事

事務局

地域マネージャー

安全・安心部会

地域福祉部会

交流企画部会

経済産業部会

地域活動諸団体

行政区

行政区

行政区

行政区

行政区

行政区

地域コミュニティ組織

C区長会主導型

顧問

副会長

会長

監事

運営委員会

区長会会長・地域マネージャー

安全・安心
部会

地域福祉
部会

交流企画
部会

経済産業
部会

地域活動諸団体

区長会

行政区

行政区

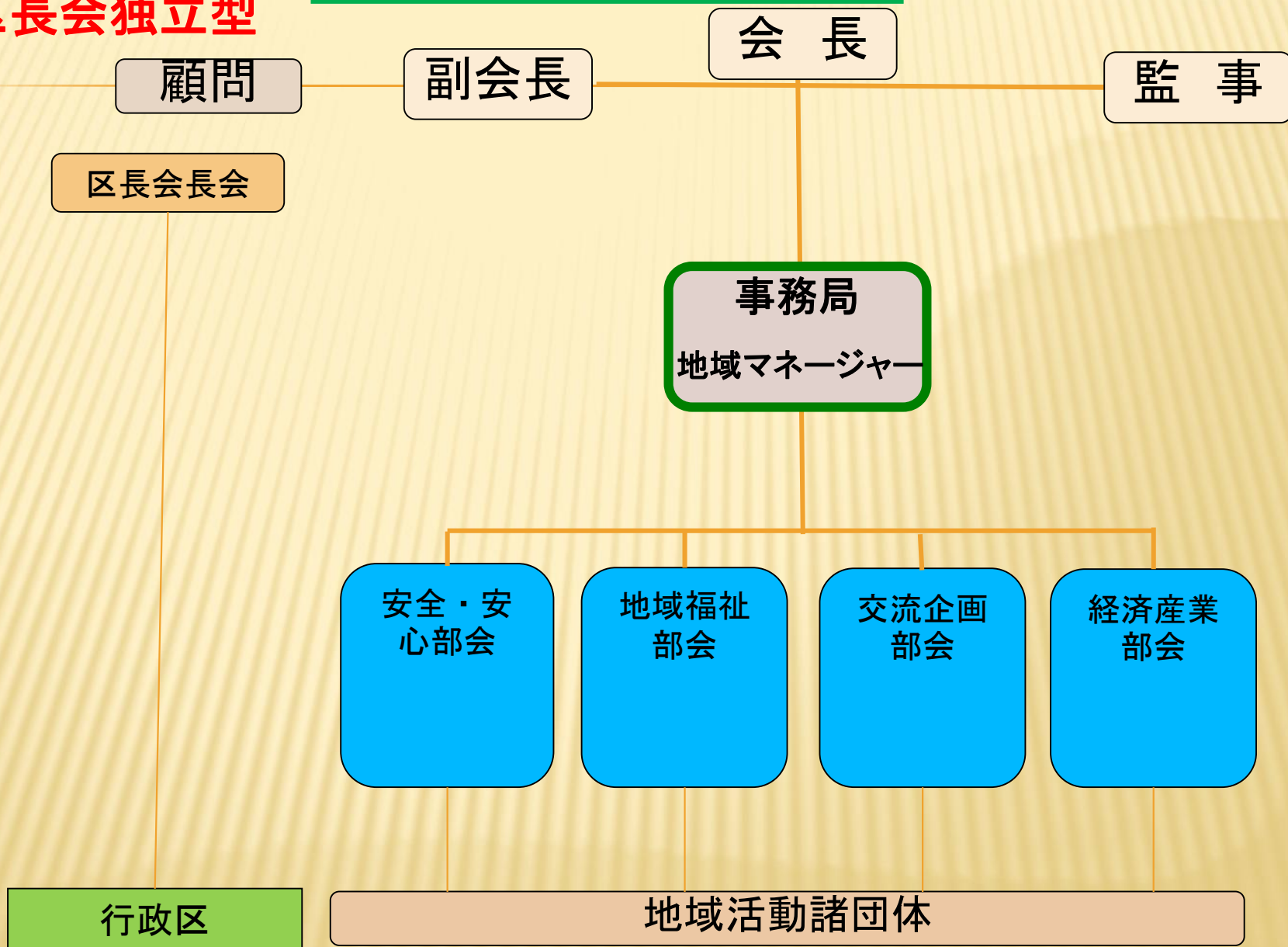
行政区

行政区

行政区

D区長会独立型

地域運営組織



<ポイント>

簡単な計画づくり：「はじめの第一歩計画」
はできるだけ**簡単**につくる

<キャッチフレーズ>

「無理をせず」
「できることから」
「コツコツと」



自分たちにしかできない課題解決を
身の丈にあった方法で行うことをリードする
それが新しいコミュニティの役割です

とよおかコミュニティ31（豊岡地区）

地区の概況

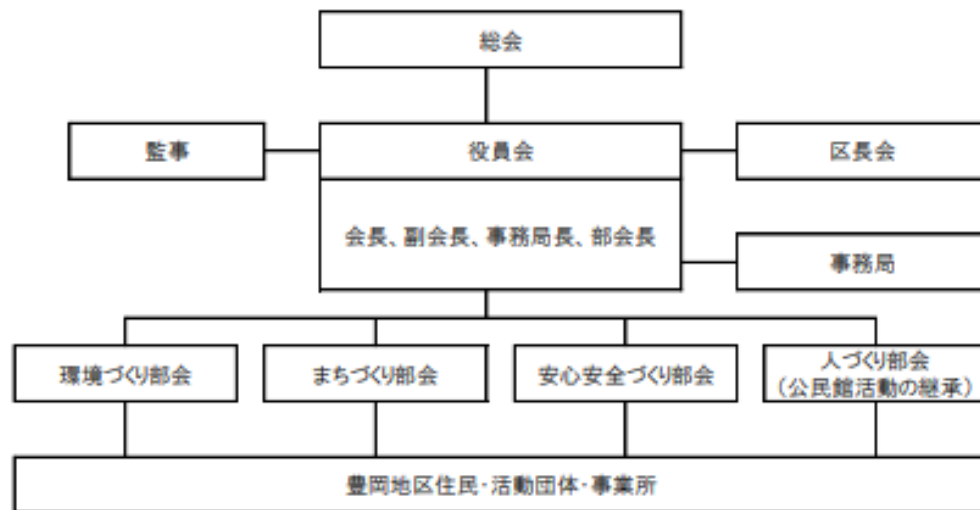
地区名	豊岡（とよおか）	小学校	豊岡小学校（児童数 402 人）
人口	9,010 人	中学校	豊岡南中学校（生徒数 524 人） （豊岡北中学校区）
世帯数	4,101 世帯	幼稚園	豊岡めぐみ幼稚園（園児数 30 人） 豊岡ひかり幼稚園（園児数 16 人）
高齢化率	36.1%	保育園	豊陵保育園（園児数 143 人） カバンストリート保育園（園児数 17 人）
集落数	31	認定こども園	なし

代表者名 芝地 邦彦

設立年月日 H29.3.26

役員体制

会長 1 名、副会長 2 名、事務局長 1 名、
部会長 4 名、監事 2 名



とよおかコミュニティ31（豊岡地区）

29年度の取組み

環境づくり部会		まちづくり部会		安心安全づくり部会		人づくり部会		その他		
取組み内容	分野	取組み内容	分野	取組み内容	分野	取組み内容	分野	取組み内容	備考	分野
麿川(いこい川)周辺清掃	地域振興	“まちづくりを語る”タペ	地域振興	“まちづくりを語る”タペ	地域振興	ソフトバレーボール大会	人づくり	情報発信	事務局	地域振興
“まちづくりを語る”タペ	地域振興	見て歩き&パーベQ大会	人づくり	見て歩き&パーベQ大会	人づくり	ラジオ体操【ヤッホーの日】	人づくり	見て歩き&パーベQ大会	事務局	人づくり
見て歩き&パーベQ大会	人づくり	盆おどり大会	地域振興	盆おどり大会	地域振興	夏休み(夜間)防犯パトロール	地域防災	「フェスティバル」	事務局	人づくり
盆おどり大会	地域振興	「北但大震災」講演会	地域防災	「北但大震災」講演会	地域防災	世代交流クラウドゴルフ大会	人づくり	チャレンジデー	事務局	人づくり
「北但大震災」講演会	地域防災	「フェスティバル」	人づくり	「フェスティバル」	人づくり	新春かるた大会	人づくり	バスツアー	事務局	人づくり
「フェスティバル」	人づくり	「豊岡排水機場」見学会	地域防災	「豊岡排水機場」見学会	地域防災	見て歩き&パーベQ大会	人づくり	新年会	事務局	人づくり
「豊岡排水機場」見学会	地域防災					盆おどり大会	地域振興	学び舎教室	事務局	人づくり
						「北但大震災」講演会	地域防災	チャレンジ・キッズ	事務局	人づくり
						「フェスティバル」	人づくり	子どもお菓子クッキング	事務局	人づくり
						「豊岡排水機場」見学会	地域防災	ジュニア詩吟教室	事務局	人づくり
								柳まつりおはやし教室	柳まつりおはやし保存会	地域振興
								親子かるた教室	あさみどり会	人づくり

とよおかコミュニティ31（豊岡地区）

豊岡盆おどり大会

平成29年8月14日、15日の両日、豊岡盆おどり大会実行委員会主催による「豊岡盆おどり大会」を、豊岡市役所前広場で実施しました。

両日ともあいにくの雨。開催するかどうかの判断が難しかったですが、通り雨にも負けず14日は280名、15日は150名ほどの参加がありました。14日には、踊ったご褒美に子どもたちへお菓子をプレゼント（先着300個）。15日には、仮装コンテストもあり様々な趣向に皆が楽しみました。発足50周年を迎える豊岡市民よう振興会による松坂節、べろべろ節の生演奏に合わせ、帰省客の参加もあり、あちこちで「笑顔の花」が咲きました。

参加者から運営事務局に対して、「ご苦労様」「楽しかった」とねぎらいの言葉もあり、心がホッと温まるひとときでした。



とよおかコミュニティ31（豊岡地区）

とよおかコミュニティ31「見て歩き」



平成29年7月16日、豊岡市教育委員会 潮崎 誠様の案内で豊岡地区の「見て歩き～『松坂節』の世界を訪ねてみよう～」を行い、45名が参加しました。

この事業は、ワークショップの中で、まずは地区のことを知ろうという意見があり、それを受けて実施する運びとなりました。

今回は、「常夜灯」（豊高敷地内）、常光寺、佐川家（京口区）、庚申堂、大磯神社等、市街地の主に南地区を約2時間かけて回りました。

円山川の改修や土地改良を通して町づくりが行われ、今の私たちの生活があること、また、車では見過ごしてしまう「お宝」を再発見できた貴重な時間でした。



【写真上】 豊高敷地内常夜灯

【写真下】 京口区 佐川家

八条コミュニティ（八条地区）

八条コミュニティ

地区の概況

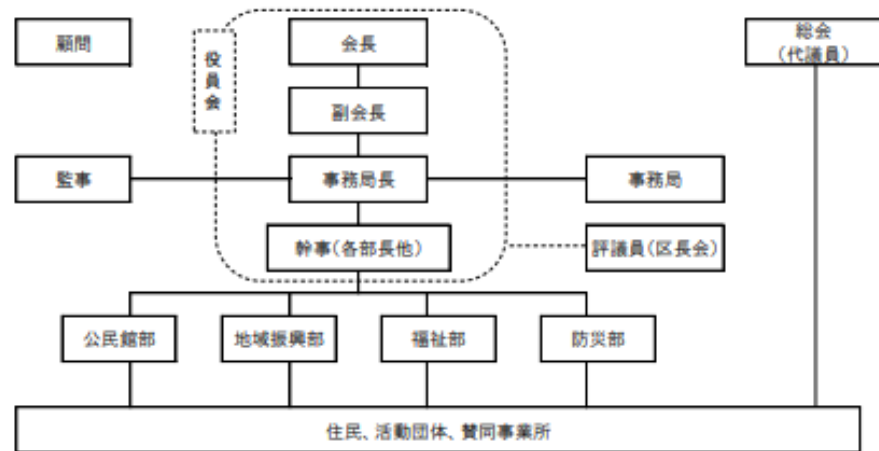
地区名	八条（はちじょう）	小学校	八条小学校（児童数 379 人）
人口	5,276 人	中学校	なし（豊岡南中学校区）
世帯数	2,166 世帯	幼稚園	なし
高齢化率	26.1%	保育園	なし
集落数	9	認定こども園	八条認定こども園（園児数 160 人）

代表者名 佐野 守男

設立年月日 H29.2.5

役員体制

会長 1 名、副会長 2 名、幹事数名、
事務局長 1 名、監事 2 名



八条コミュニティ（八条地区）

八条サロン

八条地区内の世代間交流の場を定期的に設けることを目的に、「八条サロン」を新たに立ち上げました。平成29年8月20日、八条コミュニティセンターで第1回八条サロンを開催し、66の方が参加され交流を深めました。今回は豊岡高等学校茶道部の皆様に茶道のお点前を披露いただき、39の方がお茶席を体験され楽しいひとときを過ごされました。

サロンの運営は八条コミュニティ福祉部のメンバーがあたります。お揃いのエプロン姿で、参加者の皆様に心からのおもてなしをしました。福祉部長の中井純子さんは「八条サロンは、区長会からもご支援いただいていますので、益々盛り上がるように頑張りたい。これからも、赤ちゃんからご高齢の方まで集い語らう場になればうれしいです」と今後の開催に向けての意気込みを語られました。

【写真左】 豊岡高等学校茶道部の皆様によるお点前披露

【写真右】 揃いのエプロンで運営をする福祉部メンバー（写真奥）



わいわいみ・な・み（竹野南地区）

地区の概況

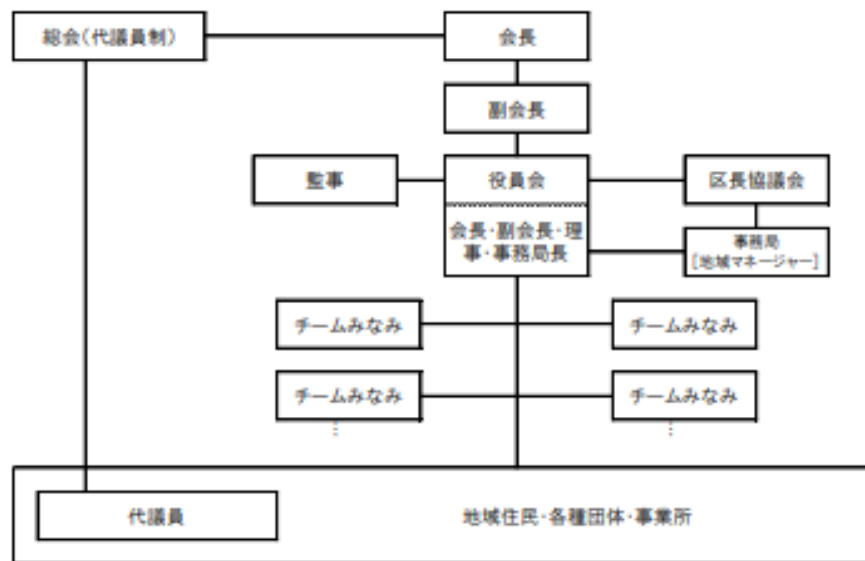
地区名	竹野南（たけのみなみ）	小学校	竹野南小学校（児童数 29 人）
人口	1,017 人	中学校	なし（竹野中学校区）
世帯数	397 世帯	幼稚園	なし
高齢化率	40.3%	保育園	森本へき地保育園（園児数 7 人）
集落数	17	認定こども園	なし

代表者名 岡田 隆男

設立年月日 H28.12.7

役員体制

会長 1 名、副会長 3 名、理事若干名、
事務局長 1 名、監事 2 名



わいわいみ・な・み（竹野南地区）

喫茶よつば / わいわいみ・な・み市場



交流広場わいわいみ・な・みでは、毎週木曜日の午前10時から午後3時の間、ボランティアグループ「よつばの会」による「喫茶よつば」を開催しています。手作りの美味しいケーキとコーヒー等が200円でいただくことができ、おしゃべりを楽しみに毎回訪れる人や、グループでイナカーに乗って来る人もいます。「よつばの会」スタッフも一緒に、楽しい交流の場になっています。

また、交流広場で同時に開いている「わいわいみ・な・み市場」には、地元の採れたての旬の野菜や花などが並びます。生産者が「今朝収穫してきたで！」と持ち寄られた新鮮な農作物を安く購入できます。「今日は何が出ているかな？」と、毎回楽しみに買い求めに来てくださる方もあるようです。



【写真上】 喫茶よつばの風景

【写真下】 わいわいみ・な・み市場開催風景

わいわいみ・な・み（竹野南地区）

ささえ愛通所サロンわいわいみ・な・み

平成29年11月8日、市内で10ヶ所目の「ささえ愛通所サロン」である「ささえ愛通所サロンわいわいみ・な・み」が竹野南地区コミュニティセンターで開所しました。

この取組みは、竹野南地区コミュニティわいわいみ・な・みが事業者となり、介護予防の為に集いの場を設け、簡単な体操、食事、送迎等の運営を市から受託するものです。開所に向けて、運営内容の検討、支援員やボランティアの募集等、平成29年5月頃から準備を進めてきました。

開所式当日にお越しになった12人の利用者の皆さんは、バイタルチェックや体操、おしゃべり、お手玉ゲーム等で一日を過ごされました。利用者の皆さんは、「楽しかったわ、また来月」と話されるなど、満足された様子でスタッフが送迎する帰りの自動車に乗りこまれました。スタッフの皆さんは、「くつろげる優しい居場所」となるよう努めたいと話されていました。

【写真左】 開所式でのくす玉割り



【写真右】 サロンの様子



中竹野地区コミュニティ（中竹野地区）

地区の概況

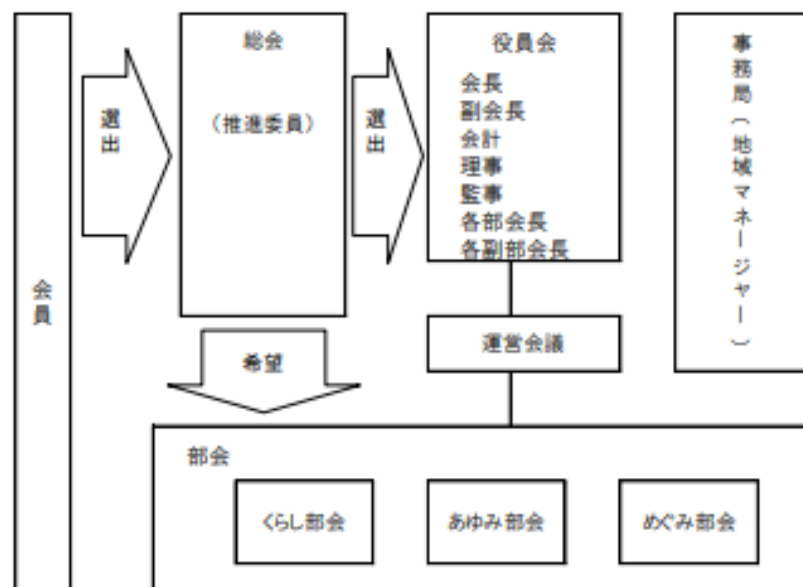
地区名	中竹野（なかたけの）	小学校	中竹野小学校（児童数 27 人）
人口	656 人	中学校	なし（竹野中学校区）
世帯数	229 世帯	幼稚園	なし
高齢化率	38.0%	保育園	なし
集落数	9	認定こども園	竹野認定こども園（園児数 73 人）

代表者名 木瀬 堯后

設立年月日 H29.1.22

役員体制

会長 1 名、副会長 2 名、理事若干名、
正副部会長 6 名、会計 1 名、監事 2 名



中竹野地区コミュニティ（中竹野地区）

こんにやくプロジェクト

平成29年11月19日、こんにやくプロジェクトのメンバーとめぐみ部会が、第20回カニカニカーニバル（但馬漁業協同組合竹野支所）に出店しました。

さしみこんにやくとゆず味噌を販売し、強風に見舞われる悪天候にもかかわらず、多くのお客さまに来店していただきました。ご購入いただいた方から「おいしかったで〜！」との声をいただき、出店に関わったメンバーは取組みに弾みをつけました。

【写真左】 前日の仕込みの様子

【写真右】 プルプルのさしみこんにやく



床尾の里てらさか（寺坂地区）

地区の概況

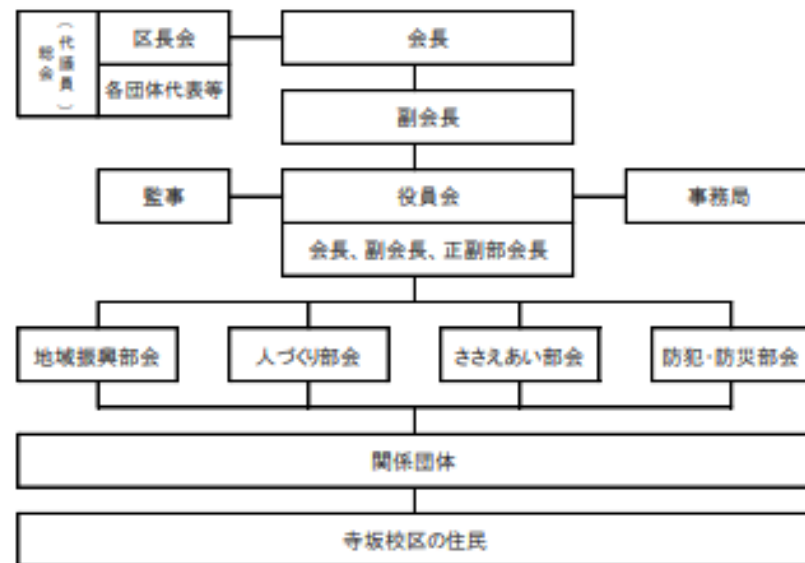
地区名	寺坂（てらさか）	小学校	寺坂小学校（児童数 27 人）
人口	575 人	中学校	なし（出石中学校区）
世帯数	197 世帯	幼稚園	寺坂幼稚園（園児数 5 人）
高齢化率	35.0%	保育園	なし
集落数	4	認定こども園	なし

代表者名 下川 諭

設立年月日 H29.1.27

役員体制

会長 1 名、副会長 2 名、部会長 4 名、
副部会長 4 名、監事 2 名



床尾の里てらさか（寺坂地区）

「土曜朝市」やっています！

地区内の野菜・花の生産農家と消費者の交流の場として「土曜朝市」を毎週土曜日午前9時から11時まで寺坂地区コミュニティセンターで、平成29年7月1日（冬季除く）から開催しています。初めての試みであり、開催前は参加農家があるのか心配しましたが、これまで13軒の農家が販売し、常時15人から35人の買い物客があります。

生産農家の方達は、お客さんに料理の仕方を指導しながら和気あいあいと楽しんでいる様子も見られ、地区内の新しい交流の場となっています。今後は小学校の児童達による販売体験も考えています。

【写真右上】 にぎわう朝市の風景

【写真右下】 生産農家の皆さん



資母まちづくり協議会（資母地区）

地区の概況

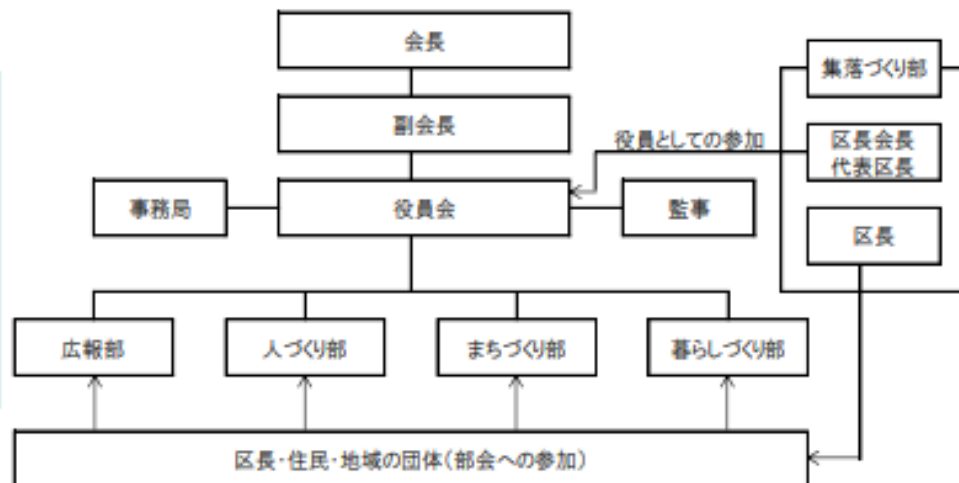
地区名	資母（しぼ）	小学校	資母小学校（児童数 62 人）
人口	1,663 人	中学校	なし（但東中学校区）
世帯数	661 世帯	幼稚園	なし
高齢化率	44.2%	保育園	なし
集落数	17	認定こども園	資母認定こども園（園児数 29 人）

代表者名 加藤 篠一郎

設立年月日 H27.8.30

役員体制

会長 1 名、副会長 2 名、理事 10 名（各部の正副部長）、監事 2 名、事務局長 1 名



資母まちづくり協議会（資母地区）

第5回ミニ音楽会



今年で5年目となるミニ音楽会を資母地区コミュニティセンター多目的ホールで開催しました。この音楽会は、資母診療所の藤本先生より寄付をいただいたピアノの披露を兼ねて始まった地区住民が手作りで行ってきた取り組みです。

当日は、地区の子どもたちのピアノ演奏やお母さんとの連弾、ピアノ講師の演奏、コーラスグループ『こだま』の合唱、そして、藤本先生のお知り合いのジャズバンド『黒ポントリオ』の皆さんが滋賀県から駆けつけてくださいました。ベース、サククス、ピアノの奏でる本格的なジャズの生演奏に、この日来場した約60人はうっとり。トークも楽しく、とても素敵な時間でした。



写真上 連弾によるピアノ演奏

写真下 出演者の皆さん

資母まちづくり協議会（資母地区）

土曜チャレンジ（ふるさと農園）

まちづくり部会では、資母小学校全児童を対象に土曜チャレンジ（ふるさと農園）を行いました。平成 29 年度は、農作物の植付から収穫まで、年 7 回の農作業体験を行いました。5 月の活動では、スイカのわらを敷く作業のほか、農園看板の作成を行いました。

8 月には、スイカ、カボチャを収穫後、如布神社の境内において収穫祭を開催しました。スイカをほおぼる小学生の様子はとてもうれしそうで、夏の日差しの下、皆元気いっぱいの笑顔を見せられました。



【写真右上】 スイカのわらを敷く作業

【写真右下】 農園看板作成の様子

【写真左】 ジャガイモ掘りの様子



コミュニティあいはし（合橋地区）

地区の概況

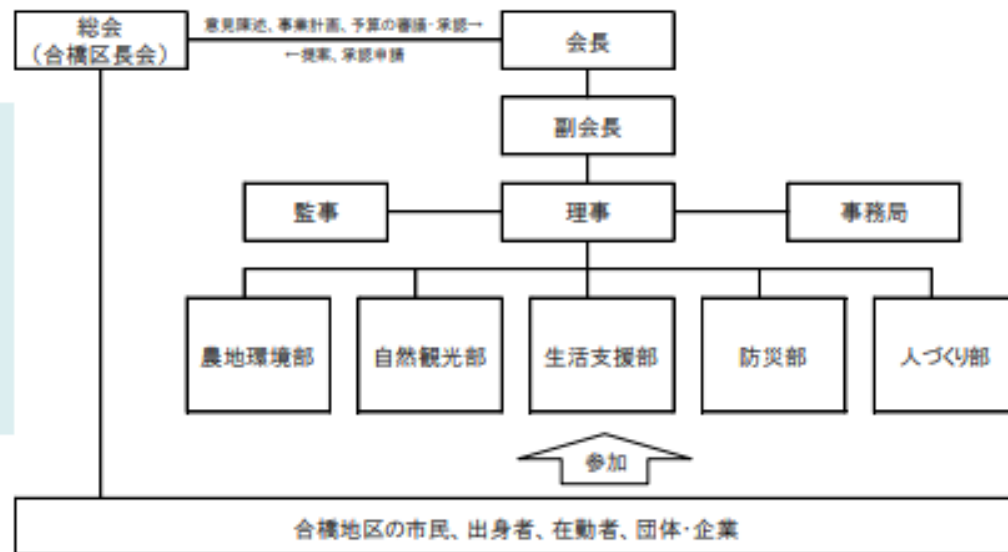
地区名	合橋（あいはし）	小学校	合橋小学校（児童数 64 人）
人口	1,713 人	中学校	但東中学校（生徒数 86 人）
世帯数	661 世帯	幼稚園	なし
高齢化率	38.2%	保育園	なし
集落数	16	認定こども園	合橋認定こども園（園児数 43 人）

代表者名 衣川 清喜

設立年月日 H29.3.17

役員体制

会長 1 名、副会長 2 名、理事 15 名以内、
部長 3 名、監事 2 名



コミュニティあいはし（合橋地区）

大阪経済大学スタディーツアー・だいけいだい教室

コミュニティあいはしでは、大阪経済大学の学生との交流を図っており、平成 29 年度は「大阪経済大学スタディーツアー」と「だいけいだい教室」を開催しました。

「大阪経済大学スタディーツアー」は、13 名の学生が合橋に訪れ、奥矢根銀山探訪、矢根わくわく農場でのさつま芋の苗植え体験を行いました。また、地区住民を交えた意見交換会を行い、今後の運営に活かせるしっかりとした意見が飛び交い、非常に盛り上がりました。

「だいけいだい教室」は、大学生が合橋地区の小中学生に 2 日間夏休みの宿題を教える取組みであり、延べ 26 人の児童、生徒が参加しました。大学生と関わる機会が少ない子どもたちにとって貴重な交流の機会になったようです。

【写真上】 大学生のさつま芋の苗植え体験

【写真下】 「だいけいだい教室」の様子



コミュニティあいはし（合橋地区）

ZUMBA®エクササイズ、ピラティス体幹トレーニング

美容と健康をテーマにした、ZUMBA®（ズンバ）エクササイズ、ピラティス体幹トレーニングでは、若い世代を中心に会員が増え、多様な教室の展開とともに、様々な世代のコミュニティセンター利用にも繋がっています。今後もコミュニティセンターへ足を運ぶ人を増やし、地域コミュニティづくりを進めていきます。

【写真左】 ZUMBA®エクササイズ風景

【写真下】 ピラティス体幹トレーニング風景



V 豊岡市の地域コミュニティ構築に 参考となる事例

高橋博之氏 『都市と地方をかきまぜる 「食べる通信」の奇跡』



損得ではなくて、人間性に引かれて、「その人のために自分はこうすれば役に立てる」「役に立って感謝された」といった、そんな関係をみんなが求めている——。僕は「ふるさと難民」と呼んでいるんですけど、都会の人にはふるさとを求めている人が多いように感じます。

(日経BPより転載)

注目が集まる「関係人口」

関係人口をつくる

定住でも交流でもないローカルイノベーション

ローカルジャーナリスト・田中輝美

人口減少地域を救う
新しいキーワードは
「関係人口」だ！

Double
Residency

Local
Volunteering

Regular
Visits

Donating
Homestead
Tax Certificates

Local
Specialty
Shopping

「移住・しなくても、
地域を学びたい！
関わりたい！」
過疎先妻業・鳥獣の取り組み
「しまことアカデミー」から、
地域との多様な関わり方を考える。

ソーシャル&エコマガジン 観光以上、移住未満の第三の人口！「関係人口」の大特集！

ソトコト

NO. 214
2
SOPOROTA
KIZUYEN

関係人口の
つくり方
Q&A

観光以上、移住未満。

関係

人口 入門

Think Local, Think People

「関係人口」概念のめばえ

■原点

- ・ 指出一正氏（「ソトコト」編集長）
- ・ 高橋博之氏（「東北食べる通信」編集長）
- ・ 田中輝美氏（ローカルジャーナリスト）

■意味

- ・ 「関係人口とは、言葉の通り『地域に関わってくれる人口』のこと。自分でお気に入りの地域に週末ごとに通ってくれたり、頻繁に通わなくても、何らかの形でその地域を応援してくれるような人たち」（指出『ぼくらは地方で幸せを見つける』）
 - ・ 「いくつかの地域ではそうした関係人口が目に見えて増えている」
 - ・ ただし、「交流人口」概念は本来はもっと多義的なもの。本来は「交流人口」に含まれる「関係人口」。
- <地域への関与の度合い>

交流人口 < 関係人口 < 定住人口

総務省 研究会（報告者も参加）

これからの移住・交流施策のあり方に関する検討会（概要）

目的

都市部に住む人々も、生まれ育った地域、両親の出身地や働いたことのある地域など生涯を通じて様々な形で関わりを持つ地域（以下「ふるさと」という。）があり、「ふるさと」を大切に想い、応援、貢献したい気持ちを持っている。一部の地方公共団体においては、このような気持ちを様々な形で地域づくりに生かす取組が生まれ始めている状況である。これらを踏まえ、これまでの移住・交流の取組成果と課題を検証し、「ふるさと」への想いを地域づくりに生かす仕組みを含め、今後の移住・交流施策のあり方を検討することを目的に検討会を開催する。

構成員

秋田 典子（千葉大学大学院園芸学研究科准教授）

小田切 徳美（明治大学農学部食料環境政策学科教授）※座長

景山 享弘（鳥取県日野町長）

作野 広和（島根大学教育学部共生社会教育講座教授）

勢一 智子（西南学院大学法学部教授）

田口 太郎（徳島大学総合科学部准教授）

丹羽 克寿（長野県企画振興部地域振興課楽園信州・移住推進室長）

宮城 治男（NPO法人ETIC. 代表理事）

山下 祐介（首都大学東京都市教養学部准教授）

（敬称略、50音順）

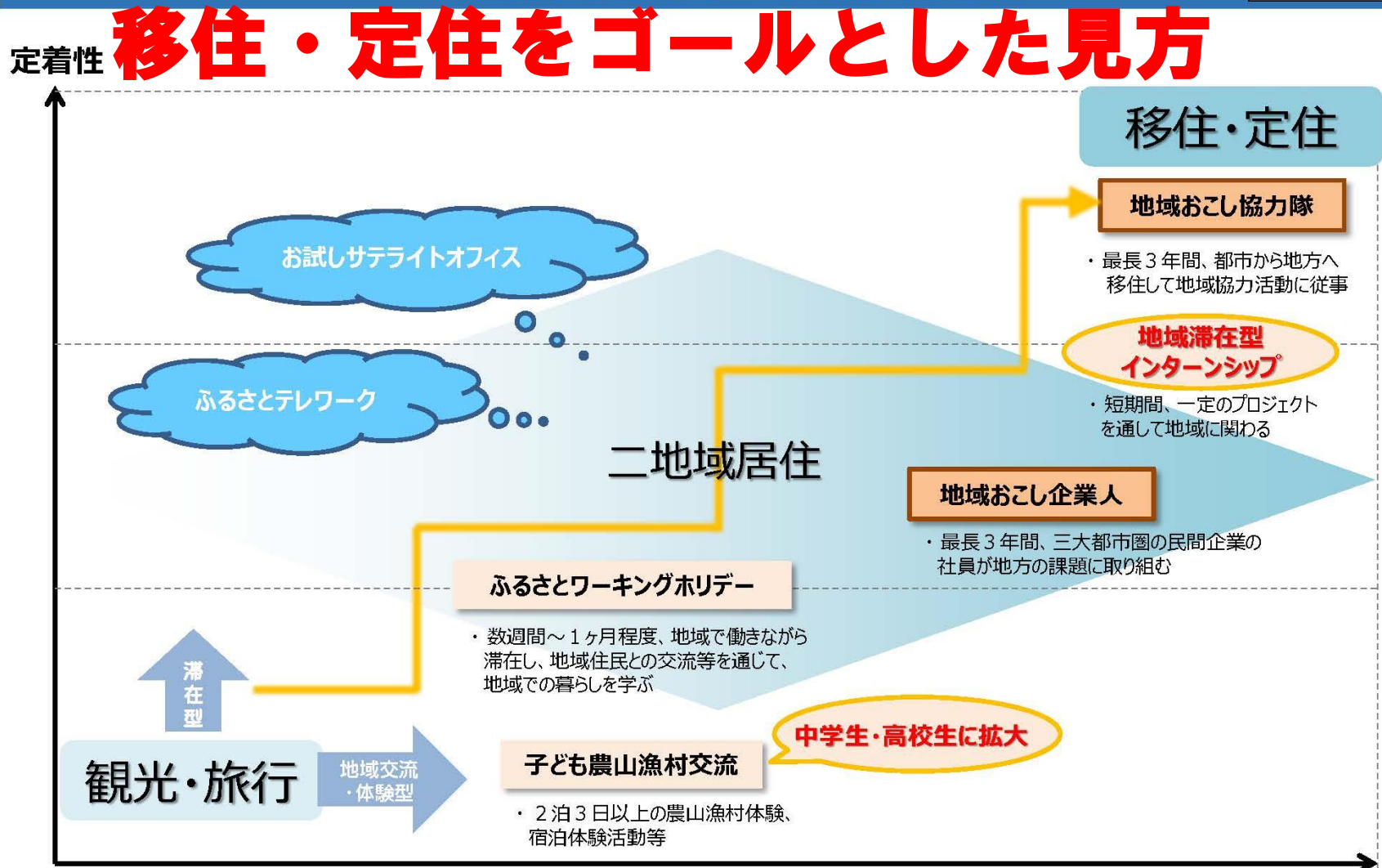
スケジュール

- 第1回（平成28年11月18日）これまでの総務省の取組説明、事例発表（鳥取県日野町、長野県、NPO法人ETIC.）、フリーディスカッション
- 第2回（平成28年12月16日）事例発表（北海道東川町）、今後の施策のあり方について議論
- 第3回（平成29年 2月14日）今後の施策のあり方について議論
- 第4回（平成29年 3月 7日）とりまとめ骨子（案）について議論
- 第5回（平成29年 3月30日）中間とりまとめ（案）について議論 ⇒（平成29年 4月25日）中間とりまとめ 公表
- 第6回（平成29年 6月 2日）有識者等からのヒアリング（ソトコト指出氏、徳島県佐那河内村）
- 第7回（平成29年 6月16日）有識者等からのヒアリング（ローカルジャーナリスト 田中氏）、最終とりまとめに向けた論点整理（案）について議論
- 第8回（平成29年 7月21日）最終とりまとめに向けた考え方について議論
- 第9回（平成29年12月12日）最終とりまとめ（案）について議論 ⇒（平成30年 1月26日）報告書 公表

「定住人口」とも「交流人口」ともいえない人の存在

段階的な移住・交流の支援

図1



「ふるさと」への多様な関わり方

<関わり具合>

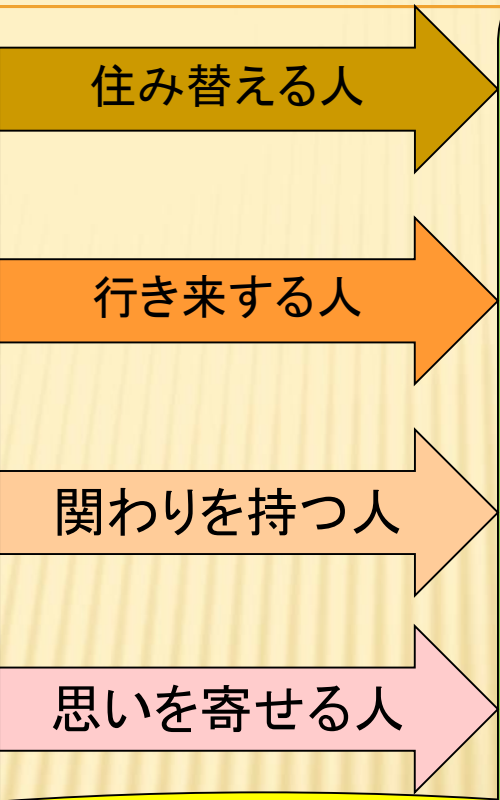
強

中

弱

<大都市圏>

経済中心
仕事中心
消費中心
職場中心
モノ・カネ中心
財・サービスの供給
革新的文化
低出生率



<地方圏>
(ふるさと圏)

生活中心
暮らし中心
生業中心
地域中心
ヒト中心
縁(えん)の創出
伝統的文化
高出生率

大都市圏と地方圏の共生による国づくり
(国民全体で「ふるさと」を支える責務)

第1の視点 都市・農村関係論的視点

ステップ1 窓口機能“人と地域”をつなぐ

「関係案内所」は「場」よりも「人」



一般社団法人アンド・モア 代表理事
徳島県南町ウエルかめ(移住交流)
コーディネーター

小林陽子さん

移住希望者と町とを
つなぐ役割



ステップ2 調整機能“人と人”をつなぐ

兵庫県佐用町長谷地域づくり協議会



地域づくり協議会(地域運営組織)



「ゴトンボの会」(任意・実行組織)

※ポイントは地域住民が主体

貸し農園付き

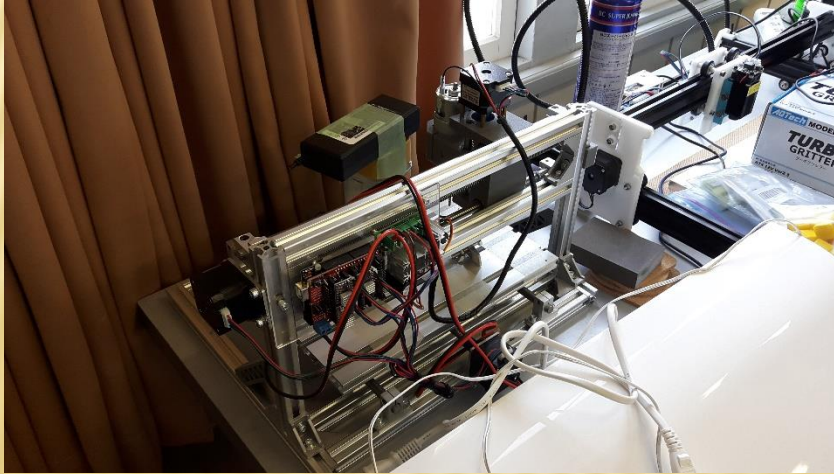


ステップ2 調整機能“人々”をつなぐ

ファブラボ (fabrication laboratory) による人つなぎ

「ほぼあらゆるもの」つくる場

→ 個人が自らの必要性や欲求に応じて、自分たち自身で作り出せるような
社会ビジョンを構築 元大手企業退職者がファシリテーション



ステップ3 継続支援機能“未来”につなぐ

コミュニティナースによる地域維持

「地域包括ケア」:住みたい地域に住み続ける→地域内の関係人口づくり



中澤ちひろさん
(株式会社
Community Care)



古市 妙さん
(地域自主組織
躍動鍋山)

矢田明子さん(NPO法人おっちらぼ)

看護がつなぐ 地域包括ケア フォーラム in 鹿本

参加費無料
どなたでも
ご参加いただけます。

2025年に向け、地域包括ケアシステムの推進が急務となっています。地域住民の身近にいる看護職として「安心して暮らせるまちづくり」のために期待されていることはなんでしょうか？ 関係職種や住民と共に、看護職の役割を考える場としてフォーラムを開催いたします。

日時 平成29年2月4日(土)
13:00~16:30 (開場12:30)

会場 山鹿市民交流センター
山鹿市山鹿987番地3 TEL:0968-43-1081
駐車場有(無料)

プログラム

- 13:00 開会
主催者挨拶
- 13:10 来賓挨拶
来賓紹介
- 13:30 **基調講演**
- 15:00 **リレートーク**
(山鹿市における地域包括ケアの現状と推進に向けて)
 - ・地域住民の立場から
 - ・訪問診療医師の立場から
 - ・訪問看護師の立場から
 - ・行政保健師の立場から

コメンテーター：矢田明子氏

16:30 閉会

基調講演

「市民と共に地域をつくる
コミュニティナース」
講師：矢田 明子氏(コミュニティナース)

プロフィール.....

- ・株式会社Community Care事業取締役
- ・鹿野総合病院計画課認定委員
- ・鹿野市立病院企画係保健師
- ・NPO法人おっちらぼ代表理事

出身市出身 鳥栖大学医学部看護学科卒
課題の多い地域医療の現場で住民に寄り添った解決策を次々と打ち出す。鳥栖県鹿本市で活動する矢田明子さん。自らを「コミュニティナース」と呼び、スマホのアプリを活用した訪問看護などで、自宅で過ごしたい高齢りたちの願いをかなえた。さらには全国から学生が集まる地域医療を学ぶツアーなどを通じて、16人もの医療関係者を呼び込むに成功。

裏面の申込書にてFAXまたは郵送でお申込みください。
氏名、連絡先、複数申し込みされる場合は人数を必ずお書きください。

申込み
お問い合わせ

公益社団法人 熊本県看護協会
〒862-0901 熊本市東区栗町3-10-39

TEL. 096-369-3203
FAX. 096-369-3204

申込み切
1月31日(火)

主催 公益社団法人 熊本県看護協会 後援 熊本県・山鹿市・一般社団法人鹿本医師会

VI おわりに

豊岡に必要なのは**内発的**な地域づくり

■市長の意見

「地域の可能性や将来性を見出す必要がある。

光を見て、『豊岡でもいいんだ』と思える地域づくりを行う必要がある」

例：アーティスト・レジデンス，平田オリザ，専門職大学・・・

「未来は語れても，未来を担う人は生まれない」

解：地域に根ざした伝統文化を守るべき

<外発的> 対応

→ 「攻め」の観点

選択肢1つ



■求められる視点

関係人口・ソーシャルキャピタル

→ **「関わりしろ」** づくり

作野「豊岡がいいんだ」

<内発的> 動き



新しい地域コミュニティの必要性

～ 豊岡市の輝かしい未来を創るために～

〒690-8504 松江市西川津町1060

島根大学教育学部共生社会教育講座地理学研究室

作 野 広 和 (さくのひろかず)

TEL & FAX : 0852-32-6107

E-mail : hsakuno@edu.shimane-u.ac.jp